

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

特集 60号記念【激甚化する自然災害】

- ・働き方改革アンケート調査
- ・若手技術者の声

vol. **60**
支部だより 2020.4

特集 60号記念「激甚化する自然災害」

目 次

Vol.60

・ 巻頭言 JCCA TOHOKU 60号記念巻頭言「60号発刊にあたって」			
……………一般社団法人建設コンサルタンツ協会 東北支部 支部長	菅原 稔郎	1	
……………(株)復建技術コンサルタント	遠藤 敏雄	2	
……………(株)オリエンタルコンサルタンツ	江藤 和昭	4	
・ 60号記念特集「激甚化する自然災害」			
「令和元年台風19号における災害対応」			
……………技術部会 技術交流委員 (株)復建技術コンサルタント	池澤 紀幸	6	
「東日本大震災の教訓に学ぶ～防災意識社会への転換に向けて～」			
……………国土交通省東北地方整備局企画部長	西尾 崇		
……………企画課建設専門官	松本 章	10	
・ 海外紀行			
「フィリピン共和国という国」			
……………(株)オリエンタルコンサルタンツ	北原 一彦	14	
・ 若手技術者の声			
「東北地方整備局職員×建コン若手の会交流会」			
……………総務部会 若手の会 (大日本コンサルタント(株))	椎名 昌士	18	
・ 私の趣味			
「スポーツ観戦のすすめ」			
～RUGBY WORLDCUP JAPAN日本2019から東京2020オリンピックへ～			
……………パシフィックコンサルタンツ(株)	鬼久保 浩正	20	
「カーティスクリークの女神に会いたくて」			
……………(株)復建技術コンサルタント	荒木 孝廣	22	
・ 女性技術者の声			
「建設コンサルタント業界に従事して思うこと」			
……………(株)復建技術コンサルタント	鷺田 なぎさ	23	
・ 新規会員の紹介			
「水環境の総合建設コンサルタントを目指して」			
……………(株)アルファ水工コンサルタンツ	阿部 勝美	24	
・ 支部活動報告			
令和元年度 意見交換会について……………		25	
第10回 復興加速化会議……………		27	
・ 令和元年度 R C C M資格試験……………		28	
・ 令和元年度 R C C M登録更新講習会……………		29	
・ 委員会紹介 「『対外活動委員会』の紹介」			
……………対外活動委員会委員長 (大日本コンサルタント(株))	向田 昇	30	
・ 特集			
「建設コンサルタントにおける働き方改革の現在地」			
……………東北支部	広報委員会	31	
「令和元年度 JCCA 講演会報告」			
……………(株)双葉建設コンサルタント	海藤 剛	33	
「建コン交流会を開催」			
……………総務部会委員 (セントラルコンサルタント(株))	石井 賢司		
……………(株)ダイヤコンサルタント	坂下 尚樹	35	
「令和元年度 東北支部会員 受賞者一覧 (3部門)……………		36	
・ 支部だより……………		38	
・ 会員の動向……………		41	
・ 東北支部 会員名簿……………		42	
・ 編集後記……………	広報委員 横川 勝美	44	



JCCA TOHOKU 60号発刊にあたって

東北支部長 菅 原 稔 郎

JCCA TOHOKU は、1985年（昭和60年）の初版発行から数えて、今回が節目の第60号発刊となりました。35年という長きの間には、歴代広報委員各位が企画から原稿依頼、編集に尽力され、また沢山の会員の皆様、発注者の皆様にもご執筆頂いたことと拝察いたしております。

関係者各位に、心から敬意を表すると共に、深く感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災発生時に支部長の任にあり、復旧・復興の陣頭指揮をとられた遠藤敏雄前支部長から私がバトンを引き継いで、まもなく3年が経過します。

私の在任中には大きな災害は発生しないよう密かに念じていたのですが、どうやら考えが甘かったようで、この数年、毎年のように「災害の多い1年」が続いております。

なかでも昨年10月、台風19号が福島県や宮城県、岩手県等で猛威を振るいました。

河川・道路・鉄道等のインフラにも甚大な被害をもたらしたことから、当支部では災害協定を締結している国や地方自治体からの支援要請に応えるべく、迅速に災害対策現地本部を設置。復旧工事発注のための災害査定に向け、多くの会員企業の皆様にご協力を頂きながら支援を行いました。

ご対応頂いた会員各社様、ご担当者様には、この場をお借りして御礼を申し上げます。

昨年6月に品確法が改正されました。調査や設計・測量などの業務が同法の対象として明確に位置付けられたことは大変喜ばしいことでした。

改正のポイントとして、災害時の緊急対応の充実強化、働き方改革の促進、生産性向上への取り組み等がありますが、この品確法改正と平成30年7月豪雨から得られた知見が、今回の災害に対する支援体制を後押ししてくれた形となりました。

業務の一時中止措置や災害査定の効率化、業務の再委託や旅費交通費の計上、県外業者との随意契約、労

基法33条の申請など、もちろん色々と混乱や、時には食い違いも生じましたが、西日本豪雨の経験を受発注者共に「共有知」にしていたからこそ、これだけの被災規模にもかかわらず、割とスムーズに対応できたのではないかと思います。

地球温暖化による気象の凶暴化は、近年、目に見える顕著な現象となってきました。

激甚化する災害によって毎年のように発生している被害の状況を見ても、さらに老朽化により劣化していくインフラの状況を見ても、「3ヶ年の緊急対策」で実施できる範囲は限定的であり、2021年度以降の予算の動向は不透明です。

先頃、足立敏之参議院議員をはじめとするインフラ再生研究会メンバーが「荒廃する日本」という図書を刊行されました。本書では、「荒廃する日本」といわれるような状況を引き起こすことのないよう、日本のインフラ整備の現状を理解し、長期的・計画的なインフラ整備を進めていくことの必要性を訴えております。

そのためのインフラ整備予算の確保はもちろんですが、それを発注者と共に遂行していく我々は、同時に、担い手の確保、働き方改革、技術力向上を実現していかなければなりません。

本年も、東北地方整備局や地方自治体との意見交換会では、これらを実現するための受発注者協働による取り組み、推進・強化を要望して参ります。

最後になりますが、JCCA TOHOKU が100号発行、そしてその先に向けて、これからも会員はじめ関係機関等へ有意義な情報発信をされますことをお願いいたします。

そのためにも、会員各位の益々の発展を祈念すると共に、協会活動へのご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上



JCCA TOHOKU 60号 発刊にあたって

株式会社 復建技術コンサルタント 遠藤 敏雄

はじめに

機関紙 JCCA TOHOKU の発行 60 号という栄えある記念に投稿する機会を得たことを光栄に思っております。初版の年（昭和 60 年）から 35 年余り、発行に携わっていただいた歴代の関係各位に心より感謝と敬意を申し上げます。引き続き協会の広報誌として、発行されていくことをご祈念申し上げます。

東日本大震災から 10 年目を迎えようとしています。震災後、私たちは常に災害に立ち向かって来ました。激甚災害は年間 4～5 回も指定されています。しかも 1 つの災害が広範囲にわたっており、その都度協会挙げて迅速な対応に取り組んで参りました。

昨年だけを見ても、気象変動の影響と推察されるような暴風雨による災害が、これまでにない程に発生しました。8 月には九州北部地方を中心に時間雨量 100mm を超える記録的な大雨が降り、冠水・浸水被害が発生しました。9 月の台風 15 号では、千葉県で観測史上初となる最大瞬間風速 57.5m/s を記録し、大規模停電や断水など、ライフラインに多大な被害をもたらしました。

そして、10 月には台風第 19 号が 1 都 13 県に及ぶ広い範囲に豪雨による激甚災害を引き起こし、大切な生命と財産・暮らし、そして地域の経済基盤に甚大な影響をもたらしました。全国で死亡者や行方不明者が 100 名を超えました。福島県で 32 名、宮城県では 19 人が亡くなり、いまだに行方不明者が 2 人となっております。多くの犠牲者に心より哀悼の意を示すとともに、被災された皆様には、お見舞いを申し上げます。少しでも早く普段の生活に戻れますようご祈念を申し上げます。

3.11 の震災や中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故以降、維持管理や構造物の耐用年数など多くの設計条件が見直されてきましたが、これまでのやり方ではもはや対応できない新しい課題を求められていると感じています。

また、人口減少に発する人手不足は深刻な担い手不足となり、働き方改革関連法の制定等を踏まえ、業界

あげて対応が求められております。

一方、東日本大震災の復興スケジュールは最終年度を迎えようとしておりますが、まだまだ、復興への道のは遠いと感じております。繰り返し見舞われる災害で、復興がますます遅れてしまうことが懸念されます。皆様にはご負担をお掛けしますが、益々のご支援を心からお願い申し上げます。

激甚災害の常態化と国土強靱化

近年の災害は「記録的」「経験したことのない」「観測史上初」といった言葉が頻繁に使われるように巨大化し、危機感をもたらせています。そして繰り返される災害により、復旧途中でありながら再び災害に見舞われるなど、多くの被災者が不自由な生活を強いられています。

台風 19 号の降水量は観測史上の最高位となり、1 時間降水量（アメダス観測値）は 100mm、期間降水量は 1,000mm を超える経験したことのない記録づくりの台風となりました。その結果、全国 140 カ所で堤防決壊が起こるなど、浸水、土砂災害や斜面崩壊など多くの災害が発生しました。

今年に入り 1 月には、時間雨量 120mm が記録され、台風 19 号で甚大な被災となった丸森町では、8,694 人に再び避難準備（警戒レベル 3）が発令されるなど、季節外れの豪雨となりました。

100 年に一度と言われるような災害がこれから毎年どの地域で起こっても不思議でないと言われております。常態化・激甚化する地震や豪雨災害に対し、早期の防災・減災対策が急がれるほか、構造物の老朽化に伴うメンテナンス体制の確立が急務となっております。

頻繁化する大規模自然災害を受けて、国土強靱化基本計画の見直しが 2018 年 12 月に閣議決定されました。災害時のインフラにおける代替性の確保や施設の老朽化対策に本腰を入れるとともに、新たに気候変動の影響を考慮した治水対策なども含まれています。政府は、インフラの緊急対策として 3 ヶ年で 3 兆円の集中投資を決定しました。同時に、長期にわたって事業化が必

要なものについては別途予算化を行い計画的に執行する必要がありますと思います。

一方で我が国は深刻な人口減少と急激な少子化・高齢化社会へ進展しています。このような中で、インフラに携わる建設コンサルタントの役割は大きく、叡智を出して優良な社会資本を確実に形成していくことが肝要と思っております。

我々の業界が、国全体のBCPを早期に整備するため、技術研鑽に励むとともに、安定経営が可能な環境づくりが必要であると感じます。

働き方改革関連法と担い手確保

担い手の確保は、企業間だけでなく業界間の激しい競争になっています。特に我が業界では人材確保が難しく、企業存続の危機に陥っている例も少なくありません。働きやすい職場の条件は、「将来の希望」、「安心感」、「信頼感」の3つがキーワードです。人によって感じ方が違うので正解とは言えませんが、我々の業界は決して働きやすい環境の職場とは言えないでしょう。

政府は、「一億総活躍社会の実現」に向けて、働きやすい環境を作るため、多くの関連法（働き方改革関連法）を制定しました。この制定で我々の業界は、やっと長時間残業からの解放や有給休暇も堂々と取れる環境になり、適切なワークライフになることが期待できます。同時に生産性を改善し経営指標の向上を図る必要があります。

一方、法令違反は罰則が科せられ、罰金と不名誉なブラック企業の汚名を着せられるでしょう。このようになったら、益々人材の確保は困難になり、企業継続も困難になると予想されます。

働き方改革は、発注者の理解と支援があってこそ、法令の遵守が可能になります。東北地方整備局が推進する品質確保の10ポイントの励行は、非常に有効な策と考えられます。業務スケジュール管理表は、業務着手時から情報共有や協議の迅速化が図れ、トラブルを未然に防いで生産性の向上に繋げる良いツールにな

ると思われます。地方自治体も含めた業界全体が推進することで、災害に強い国土を形成しつつ、業界全体の安定が確保されることを願っております。

おわりに

国の公共事業関係予算は、少しずつではありますが、当初予算で対前年比を上回るようになって参りましたが、しかしながら、現段階の予算では増加していくメンテナンス費用を賄うだけで新規の整備は出来ないのが実態です。東北地方にとってインフラ整備は、産業の定着や人材流出の歯止めの対策となります。このためにも、新規のインフラ整備の予算化が必要不可欠です。復興で整備したインフラの有効活用のためにも、関連事業を推進する新たなインフラが必要であり、協会・学会等を通じて国民の理解を得られるよう、訴えていかなければなりません。

協会活動は、当協会内にとどまらず地域にある多くの関係団体や協会と互いの特徴を生かしながら連携し、地域のインフラを支えていく必要性を強く感じています。台風19号の災害対応では、まさに、当協会をはじめ東北地域内はもちろんのこと全国の多くの協会と連携するという大きな力で支えられて、対応することが出来ました。お陰様で災害協定締結外の自治体への支援も叶い、災害を乗り越つつあります。

当協会は、全国的に展開している巨大な組織を持ち、総合的な知見を持った技術者を抱える企業の集団です。この力と地域とが協力・連携することであらゆる危機を乗り越え、防災・減災、地方創生・地域活性化に寄与できるものと信じております。一社）建設コンサルタント協会東北支部がより一層、発展していくことを切に期待しております。

以上



JCCA TOHOKU 60号記念発行にあたって

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 江 藤 和 昭

1. はじめに

建コン東北支部広報誌60号の発行おめでとうございます。私は平成20年10月から8年間に亘り、東北支部において、情報委員長、対活委員長、副支部長を務めさせて頂きました。何とか無事に務められたのは当時の遠藤支部長はじめ役員の皆様、会員並びに事務局の皆様のご指導、ご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。支部の活動において記憶に残る取り組みと、今思うところについて紹介させて頂きます。

2. 振り返ると

平成20年頃は低入札が数多くあり、業界においても死活問題となりました。入札制度に対しての発注者への要望を提出し、繰り返し協議を重ねました。平成23年には東日本大震災により、東北地方は甚大な被害を受けましたが、遠藤支部長の下で、支部会員が団結し、復旧、復興に献身的に従事いたしました。この震災を機に、新たな事業手法としてPPP（Public Private Partnership）が国の事業促進に導入されました。続いて、CMR（Construction Manager）が地方自治体の復興事業に導入されました。平成26年には品確法が改正され、コンサルタント業界にとっても変革の時代と感じられました。

支部はこのような中で、たくさんの問題に正面から取り組み、震災の被害に対して、少しでも早く復旧、復興が進むように、前向きにさまざまな提案を行ってきました。各県との災害協定もその一つですし、コンサルタント同士のJVも大震災を機に可能となりました。国民の安全、安心は何物にも代えることはできません。東北地方において、住民が安全に暮らし、安全な仕事に従事するために、インフラを積極的に整備、維持、保全していくため支部の活動は誠に重要であります。改めて協会活動の重要性を再認識させて頂きました。

3. これから

東日本大震災の発生後、災害は毎年のように発生し

ています。平成26年7月の高知～北海道における広域的な豪雨、平成28年の熊本地震、平成28年の岩手・北海道での台風10号等、平成30年の北海道胆振東部地震、平成30年の岡山・広島・愛媛などでの西日本豪雨、令和元年10月の関東～東北地方を襲った台風19～21号など指定された激甚災害だけで、この6年間に於いて6度の災害に見舞われています。これらの災害以外に、16度の局地的な激甚災害が発生しています。国土強靱化はますます重要視されて、今後も継続して、効果的な施策を実施していく必要があります。

その一方で次世代へ向けて発展を支えるインフラも必要です。今般、日本は、少子高齢化が進み、大きな問題となっていますが、東北地方は他の地方に比べ、とりわけ、人口減少率は高いものとなっています。今後の東北地方についてどう考え、どのように行動していくのか、コンサルタントとしての役割をどう果たすのかを深く考え、活動していかなければなりません。

私の東北についての印象は、一言でいえば、「優しさ」です。東北らしさとは暖か味のある世代を超えた優しさに他ならないと考えます。ヒトに優しい地域づくりを大切に、地域の特性を維持しつつ、それぞれの地域を発展させていくことが必要と考えます。ただ、今までの進め方ではどうしても個別にバラバラに提案、行動してもなかなか目に見える形として成功につながりません。東北地方全体が一体感をもってPRできるような効果的なインフラの整備が必要と考えます。平成30年に支部から発行された「TOHOKU 復興から創生そして近未来への提言」には多数の提案や考え方が示されています。

- ① 質の高い交通ネットワークの保有
- ② 鉄道、港湾、道路の交通結節点の整備
- ③ インバウンドへの対応 等々

提言の中に東北は他の地域に比べ、3世代の割合が高く、独居老人の比率も少ないとあります。支え合って生きることが身につけている地域であり、地域全体で一体感を持って暮らしを支えていく基礎ができていると思います。

私は上記の3つは特に推進されるべき主要施策ではないかと思います。東北地方の各県、各地域がそれぞれ施策を打つことも重要ですが、それらを活かすためには、質の高い交通ネットワークと重要施設となる結節点の整備が重要であると考えます。地域の特性をふまえてインフラを整備しつつ、マネジメントしていくことが次の世代に向けた街を残せる方法ではないかと考えます。そのための仕組みを作り上げていくことが私たち建設コンサルタントの役割の一つだと考えます。インフラは文字通り、基盤であり、そこに住む人にとっても、訪れる観光客においても大切です。そこで地域に合った産業を集中と選択により効果的に育てていくことができれば、自ずと地域が発展し、それを連携することにより東北全体が浸透しながらスパイラル的に発展することができると考えます。建設コンサルタントとして、提言に示した①や②の事業やプロジェクトを具体的に推進することが近未来への道だと考えます。さらに、③のインバウンド対応は新たな魅力の発掘、発信であり、これまで気付かなかった外国人からみた魅力を再認識し、広報していくことだと思います。その際、芋づる式の広報が必要だと思います。芋づる式の広報とは、ストーリー展開をもって、芋づるの途中の身となる芋の部分には、連携した街、産業、食、イベント、トピック、人材などがあるのではないのでしょうか。人の動きは、物の流れや資金の流れを生み、その流れを生むためには地域間の連携が重要であり、連携を意識したマネジメントのしくみを構築していくことが私たちの使命の一つだと考えています。

4. おわりに

東日本大震災の被災地の皆様のご苦勞へ報いる為の復興の継続、国土強靱化への継続的、計画的な対応、今後を見据えた新たなインフラ整備に向けた施策の推進、さらには地域マネジメントと地域連携など私たちの果たすべき役割は多様であり、重要です。これらの役割を着実に果たし、社会に貢献して行くことが我々の使命と考えます。東日本大震災の教訓を忘れること

なく、広報機関紙が今後も継続して発行されますよう、会員はじめ関係機関等へ有意義な情報発信・提供が出来ますよう願っております。建コン東北支部の益々のご発展と会員皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

「令和元年台風19号における災害対応」

技術部会 技術交流委員

株式会社 復建技術コンサルタント 池澤 紀 幸

1. はじめに

令和元年10月12日～13日にかけて、台風19号が通過し、東海地方、北陸地方、関東甲信地方、東北地方において広範囲かつ記録的な大雨に見舞われ、多くの箇所では災害が発生しました。今回の災害対応においては、多数の会員の協力を得ながら、短期間の中で多くの災害箇所において、査定に向けた対応をしていただきました。誠にありがとうございました。

本稿においては、本支部技術交流委員として対応した、台風19号に伴う災害査定の取り組みを踏まえ、災害対応の課題や今後の災害に備えるべきことについて述べます。

なお、令和元年10月においては、10月下旬にも、福島県を中心に大雨による被災がありました。東北支部への要請の多くは台風19号に関する事項であったことから、本稿では、台風19号を対象とした記述とします。

2. 台風19号の概要

(1) 気象概要

内閣府防災情報ホームページ^{*1}によると、台風19号通過時における気象概要は以下の通りです。

- 10月12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上に抜けた（図1参照）。
- 台風本体の発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響で、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広範囲で記録的な大雨となった。
- 気象庁は、12日19時50分に福島県、宮城県に、13日0時40分に岩手県に特別警報を発表した。

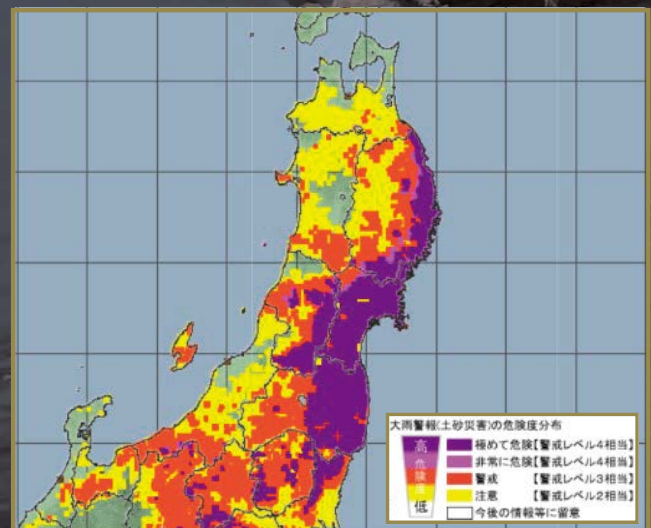
また、気象庁によると、前述した特別警報が発表された直後の13日1時時点における大雨警報（土砂災害）の危険度分布は、図2に示すとおりであり、岩手県、宮城県、福島県及び山形県の広範囲にわたり「極めて危険」（警戒レベル4相当）となっていました。



※大きな●は9時時点の台風中心の位置。小さな●は6時間毎の位置。

出典：「令和元年 台風第19号とそれに伴う大雨などの特徴・要因について（速報）」（気象庁）

図1 台風19号の経路（各日9時の地点図）



出典：「気象庁ホームページ」（気象庁）

図2 大雨警報（土砂災害）危険度分布（10月13日1時）

(2) 降水量

アメダス観測値における1時間降水量及び24時間降水量は、表1に示すとおりです。

1時間降水量は、普代（95.0mm）を最高に、小本、宮古、筆甫、久慈で70mm以上の降水量を観測しており、24時間降水量は、筆甫で588.0mmを観測しています。

また、国土交通省^{*2}によると、累加雨量は、青

野雨量観測所（鳴瀬川水系大滝川（宮城県加美町））410mm、筆甫雨量観測所（阿武隈川水系（宮城県丸森町））594mm、大内雨量観測所（同水系雉子尾川（宮城県丸森町））612mm を記録しております。

表1 主な観測点の降水量（アメダス観測値）

1時間降水量			
市町村名	観測点	降水量（mm）	
岩手県 下閉伊郡普代村	普代	95.0	
岩手県 下閉伊郡岩泉町	小本	93.5	
神奈川県 足柄下郡箱根町	箱根	85.0	
岩手県 宮古市	宮古	84.5	
神奈川県 足柄上郡山北町	丹沢湖	81.5	
宮城県 伊具郡丸森町	筆甫	80.5	
岩手県 下閉伊郡山田町	山田	77.5	
静岡県 静岡市葵区	梅ヶ島	75.0	
岩手県 久慈市	久慈	71.0	

24時間降水量			
市町村名	観測点	降水量（mm）	
神奈川県 足柄下郡箱根町	箱根	942.5	
静岡県 伊豆市	湯ヶ島	717.5	
埼玉県 秩父市	浦山	647.5	
東京都 西多摩郡檜原村	小沢	627.0	
静岡県 静岡市葵区	梅ヶ島	613.5	
神奈川県 相模原市緑区	相模湖	604.5	
宮城県 伊具郡丸森町	筆甫	588.0	
埼玉県 比企郡ときがわ町	ときがわ	587.0	
東京都 西多摩郡奥多摩町	小河内	580.0	
埼玉県 秩父市	三峰	561.5	

ゴシックは、東北地方の観測点
出典：「気象庁ホームページ」

(3) 水位・波高

国土交通省※²によると、河川の水位及び港湾の波高は以下の通りである。

- 東北地方213観測所のうち、34観測所で24時間降水量の観測史上最高値を更新した。
- 鳴瀬川水系（宮城県）、阿武隈川水系（福島県、宮城県）等、21の水位観測所で観測史上最高水位を更新した。
- 東北地方太平洋側の各港では設計波高と同等、それ以上の波高を観測しており、宮古港で5.96m、久慈港で7.67m を記録した。

3. 被災概要

内閣府防災情報ホームページ※¹によると、台風19号による東北地方における国管理、県管理の道路、鉄道、河川等の被災概要は、表2の通りです。

表2 台風19号による被災概要

補助国道		
路線名	区間名	被災状況
国道286号	宮城県川崎町	法面崩落
国道399号	山形県高島町	橋梁流出
国道115号	福島県相馬市	土砂流出
国道289号	福島県いわき市	土砂崩落

県道	
県名	区間数（内訳）
岩手県	4（路面陥没2、土砂流出2）
宮城県	10（土砂崩れ1、法面崩落7、土砂流出1、道路損壊1）
山形県	2（土砂流出1、法面崩壊1）
福島県	20（法面崩落5、土砂崩れ4、橋梁損傷1、土砂流出10）

鉄道	
事業者名	区間
三陸鉄道	釜石～両石、岩手船越～折笠、陸中山田～豊間根、弘川～津軽石
阿武隈急行	富野～丸森

河川	
管理区分	区間
国	2水系2河川2箇所（吉田川、阿武隈川）
宮城県	4水系18河川36箇所（新川、五福谷川等）
福島県	11水系23河川49箇所（宇多川、夏井川等）

土砂災害		
県名	土石流等	がけ崩れ
岩手県	74件	23件
宮城県	185件	109件
山形県	－	3件
福島県	19件	119件



写真1 台風19号による被災状況（五福谷川及び沿川）

4. 東北支部への災害応援要請

東北支部への災害応援要請の概要は、表3に示すとおりです。

表3 東北支部への災害応援要請の概要

区分	要請内容
東北地整	東北地整及び5事務所より9件の要請
宮城県	本庁及び7事務所より21件の要請
福島県	本庁より1件の要請
岩手県	1事務所より1件の要請
市町村	宮城県内1市2町より6件の要請

(1) 要請の内容

1) 東北地方整備局

東北地方整備局及び5事務所（湯沢、仙台、北上下流、福島、磐城）より9件の要請を受けました。内訳は、阿武隈川などの河川143箇所、道路1箇所、砂防・堰堤4箇所でした。

災害対策等締結団体の協力（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

■ 災害発生時の復旧等の緊急対応を迅速に行うため、東北地方整備局では関係団体と応急対策業務等の協力協定を締結。

■ （一社）建設コンサルタンツ協会東北支部では、迅速に河川の被害状況等の調査を実施。



河川管理者と合同で河川護岸等の被害状況調査（阿武隈川）



河川護岸等の被害状況調査（建礼川）

出典：「東北地方整備局ホームページ」

図3 災害対策等締結団体の協力

2) 宮城県・福島県・岩手県

①宮城県

宮城県からは、本庁及び7事務所より21件の要請を受けました。内訳は、大河原・北部・東部をはじめとする事務所を中心に、河川809箇所、砂防・堰堤51箇所、道路66箇所、高等学校3箇所でした。

②福島県

福島県からは、本庁より1件の要請を受けました。内訳は、浜通りの河川3箇所でした。

③岩手県

岩手県からは、1事務所より1件の要請を受けました。内訳は、河川30箇所でした。

3) 市町村（宮城県）

宮城県内市町村は、大崎市、南三陸町、丸森町の1市2町より6件の要請を受けました。内訳件数は、河川65箇所、道路248箇所、その他2箇所でした。

(2) 査定スケジュール・各種通知

1) 査定スケジュール

岩手県、宮城県、福島県の査定スケジュールは、以下の通りであり、発災後4ヶ月も無い中で、宮城県土木部だけでも2,000箇所近くへのほり、短期間で非常に多くの箇所数を対応することとなりました。

表4 査定スケジュール

県名	期間
岩手県	2019年11月12日～2020年1月31日
宮城県	2019年11月19日～2020年2月7日
福島県	2019年11月19日～2020年1月31日

表5（参考）宮城県土木部災害査定スケジュール

区分	件数	査定	設計書審査
第1次査定	5	2019.11.11～12	R01.11.1
第2次査定	129	2019.12. 9～13	2019.11.11～15
第3次査定	68	2019.12.16～20	2019.11.18～22
第4次査定	196	2019.12.23～27	2019.11.25～29
第5次査定	311	2019. 1.14～17	2019.12. 9～13
第6次査定	312	2020. 1.20～24	2019.12.16～20
第7次査定	315	2020. 1.27～31	2019.12.23～27
第8次査定	652	2020. 2. 3～ 7	2020. 1. 6～10
合計	1,988	—	—

※1,988件の内訳は、建コン以外の対応を含む。

※「令和元年災 災害査定（台風19号）作業スケジュール（宮城県、令和元年12月10日時点）より作成

2) 業務の一時中止措置について

この災害における業務一時中止命令は、11月初めまでには、東北地方整備局管内の事務所、東北6県、仙台市のすべてにおいて通知が発出されました。

査定に向けた対応に集中できるようになった一方で、従来業務の工期が延長されないことになる業務量の増加、工期が年度を繰り越すこととなった場合における手持ち業務件数の課題が見えてきました。

表6 業務の一時中止措置について

期 日	内 容
10月15日	本省より各地整に対し通知
10月15日	本省より各都道府県、政令指定都市に対し通知
10月16日	東北地方整備局より各出先に対し通知
11月1日	東北6県及び仙台市のすべての通知が揃う

3) 労基法33条の申請について

労働時間の上限規制について申請する必要がある場合において、宮城県土木部事業管理課による労働基準監督署との調整の結果、統一の様式が定められました。

この様式は、事業の種類が「測量及び建設コンサルタント」と明記されており、建設コンサルタントの災害時の活動が、労働基準法第33条の災害時の特例に該当することが認められるとともに、建設コンサルタント業務の重要性を評価された結果だと思えます。

4) 災害査定の効率化（事前ルール）の通知

災害査定の簡素化については、表7に示す通り、宮城県からは10月末までには、災害査定の効率化（査定図書作成の簡素化）の通知がありました。

ただし、この通知についての取り組みは、事務所ごとに対応が異なる場面が多く、査定図書作成に関して会員間で対応すべき作業内容の差が出ていました。

表7 災害査定の簡素化

期 日	内 容
10月18日	国土交通省より宮城県土木主管局長宛に査定の効率化の通知
10月21日	宮城県土木部防災砂防課長から部内関係課長・出先機関への通知
10月29日	宮城県防災企画課より災害査定の効率化のため基本方針（案）の通知
10月31日	宮城県防災企画課より災害査定の効率化のため基本方針の通知（適切な実施）
12月4日	宮城県より台風19号に伴う施工中の工事及び建設関連業務の取扱いについて（通知）

5) 業務の再委託及び旅費交通費の計上について

10月21日 宮城県土木部が東北支部長宛に県外業者における災害査定業務の再委託及び旅費交通費の取扱いについて通知がありました。

これにより、県外業者による再委託を活用して、測量など現場作業等の迅速な対応が可能になりました。

(3) 東北支部の取り組み

1) 災害対策本部の設置

東北支部においては、2019年10月21日に災害対策本部を設置し、発注者からの要請に基づき様々な対応をしました。特筆すべきことは、災害箇所が多いため、さらに対応する班編成が必要な状況に及んだことから、2度の協力要請を会員に発信したことが挙げられます。

2) 自治体への訪問（宮城県・丸森町）

宮城県に対しては、宮城県測量設計業協会と合同で訪問し（10月23日、31日、11月13日）、宮城県や市町村の査定対応のため、査定の効率化などを陳情しました。

また、11月21日には、災害箇所数が多い丸森町へ訪問し、査定の効率化について意見交換等を行いました。

3) 自治体との意見交換会

毎年開催される自治体との意見交換会においては、担い手確保、就業環境の改善、技術力向上・品質確保や安定経営の取り組みのほか、業務の一時中止措置や査定の簡素化などの災害対応についても意見交換をしました。

4) 技術部会

技術部会は、2019年11月までの間に4回災害対応の会議を開くほか、宮城県東部土木事務所、大河原土木事務所などに訪問し、意見交換や情報交換をしました。

5. 課題（今後の災害に備えて）

今回の災害要請における査定までの対応を通して、課題や今後の災害に備えたほうが良いと考えられる事項を次の通り整理しました。

初動の時点での対応、査定の効率化、そして記録として保存することが挙げられます。

(1) 災害査定における取り組みの課題

- ・技術部会としては、早い段階に被災状況を把握し、査定の効率化も含め、対応方法を検討した方が良いと思います。
- ・調査・測量から設計に至るまでドローン等を活用し3次元データを活用した方が良いと考えられます。
- ・今回の災害対応の記録を残す（査定図書の簡素化や通知についてもストックする）が必要だと考えます。

6. おわりに

本号が発刊される頃は、実施設計など大変な時期となっているものと思われます。災害対応、働き方改革、業務の平準化などトレードオフの関係になるものがあると考えられますが、技術部会の1人として、気づいたことがあれば進言や提案をしたいと考えています。

(参考資料)

- ※1:「令和元年台風第19号等に係る被害状況等について」
(令和2年1月内閣府)
- ※2:「台風19号による被害と対応の状況について ―初動の1ヶ月―」(令和元年11月 国土交通省東北地方整備局)

東日本大震災の教訓に学ぶ ～防災意識社会への転換に向けて～

国土交通省東北地方整備局 企画部長（震災伝承ネットワーク協議会副会長）
国土交通省東北地方整備局 企画課 建設専門官

西 尾
松 本

崇
章

1. はじめに

近年、地震や豪雨などの自然災害が激甚化、頻発化している。このような中、災害の教訓を踏まえ、行政・住民・企業の全ての主体が災害リスクに関する知識と心構えを共有し、様々な災害に備える「防災意識社会」への転換が求められている。

一方、発災から約9年が経過した東日本大震災の被災地では、震災遺構の保存、慰霊碑や追悼施設の整備、語り部活動など、震災の実情や教訓を次世代に語り継ぐ「震災伝承」の取り組みが各地で数多く進められている。これらの取り組みをネットワーク化し、目的に応じて教訓を巡り学べる仕組みをつくることで、災害への備えを実体験として学べる機会を被災地のみならず全国各地の方々に提供できるものと考えられる。

本稿では、産学官民の連携により実現しつつある、防災意識社会への転換に向けた先駆的な取り組み「3.11伝承ロード」について紹介する。

2. 東日本大震災の被害

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、東日本の太平洋沿岸は500kmにも及ぶ広い範囲で甚大な被害を受けた。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が引き起こした巨大津波により、死者・行方不明者は2万人規模、家屋の損壊は100万戸以上、被災総額は約17兆円にものぼる未曾有の被害をもたらした。戦後の約70年で見て、死者・行方不明者が5千人を超えたのは伊勢湾台風（昭和34年、5,098人）と阪神淡路大震災（平成7年、6,437人）のみであり、規模の大きさがわかる。

政府の東日本大震災復興構想会議は、発災から2か月後に「復興構想7原則」を決定したが、この1番目として、「教訓を次世代に伝承し、国内外に発信する」ことが位置付けられている。

3. 各地に残る教訓

東北の被災地には数多くの教訓が残されている。震災遺構をはじめ、震災をテーマとした博物館・資料館、石碑・慰霊碑、さらにはそれらの施設と連携した

語り部活動など、形は様々であるがそれぞれに貴重な教訓が内包されている。以下にいくつかの教訓の例をあげてみる。

(1) 津波の実相を知る

岩手県宮古市にあるたろう観光ホテル（写真－1）は、高さ17mを超える津波を受け、4階まで波に襲われた震災遺構である。ホテルの社長が屋上で撮影した津波映像を観ることができ、もとの町並が津波によって破壊され、津波が眼下の足下にまで迫る過程を現在の荒れ果てた光景と比較することにより、津波の恐ろしさを実相として知ることができる。



写真－1 たろう観光ホテル

(2) 避難とその備えを知る

宮城県仙台市にある仙台市立荒浜小学校（写真－2）は、地域の指定避難所となっていたが、2階まで津波が押し寄せた震災遺構である。児童、教職員、地域住民約320人がここで寒さを凌いで一夜を過ごし、ヘリコプター等で救助された。避難の判断と避難生活の様子、それを教訓とした災害への備えについて知ることができる。



写真－2 仙台市立荒浜小学校

(3) 災害時の支援体制を知る

岩手県遠野市にある遠野市後方支援資料館(写真-3)は、沿岸被災地に対する後方支援活動についての記録資料を展示する施設である。この施設では、避難者の受け入れや避難所運営、他地域からの物資の受け入れ・供給を担う物資センターの運営など、災害時に基礎自治体が担う活動を知ることができる。



写真-3 遠野市後方支援資料館

(4) 行政と建設業界の備えを知る

岩手県陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館(写真-4)では、被災した構造物の実物、インフラの被災の現場をとらえた写真などにより、元の生活を取り戻すために不可欠な社会インフラの迅速な復旧について知ることができる。震災直後の初動対応に対する様々な障害と対応、今後の改善の方向性などが示されている。

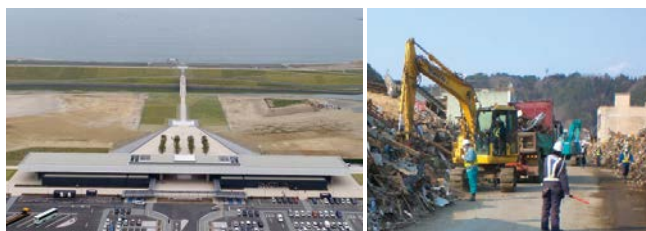


写真-4 東日本大震災津波伝承館

東日本大震災以降も、熊本や北海道胆振東部での地震、各地での豪雨災害等、国内各地で災害が頻発している。南海トラフでの大規模地震の発生確率が30年以内に70～80%とされているなど、今後の地震・津波の発生リスクも高まっている。台風や豪雨についても、時間降水量50mm以上の降水量の年間発生回数は経年的に増加傾向にあり、洪水の発生リスクも高まっていると言える。

一方、災害が起きた場所を調べてみると、多くの場合、過去にも災害が繰り返し起きていることがわかる。平成30年7月に発生した西日本豪雨災害では、111年前の洪水被害を語る「水害碑」(写真-5)があったが、この事実を知る人がほとんどおらず、先人が残した教

訓は助かる命を救えなかった。

「災害列島日本」においては、いつどこで災害が起きかわからないという認識に立ち、自分自身の災害リスクと有事の対応について正しい知識を持ち、日頃から備えておくことの重要性が高まっている。



写真-5 広島県坂町の水害碑(撮影:大阪府警)

4. 教訓を学べる仕組みづくり

(1) 震災伝承ネットワーク協議会の取り組み

東北の被災各地には数多くの貴重な教訓が残されているが、個々の取り組みだけでは東日本大震災の実情や教訓を総体として知ることは困難である。このため、被災地における震災伝承を効果的・効率的に行うための連携を図ることを目的に、「震災伝承ネットワーク協議会」(東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市)を平成30年7月に設置し、12月に取り組み方針をとりまとめた。震災伝承の取り組みをネットワーク化(点から線へ、線から面へ)し、総体でメッセージを発信することにより、防災力の強化と被災地の交流促進や地域創生を図ろうとするものであり、具体的な取り組みは次の3つの柱で構成されている。

- ① 震災伝承ネットワークの運営・伝承ロード形成
- ② 防災プログラムの基盤形成と開発
- ③ 復興に向けた地方創生・地元支援

この取り組みについては、国土交通大臣、岩手県・宮城県・福島県・仙台市の知事等が参加する第9回復興加速化会議(平成31年1月開催)においても議論が行われた。各知事等からはこの取り組みを連携して進めたいとの発言で一致し、それを受けて国土交通大臣から、東北地方整備局がとりまとめ役となって具体の取り組みを加速するよう指示があった。

これを受け、具体の取り組みの第一弾として、東日

本大震災の実情や教訓を伝承する「震災伝承施設」の募集を行い、平成31年3月に初回として192件を登録し現在224件が登録されている※。写真1～4で示したような震災遺構や展示施設のほか、モニュメントや古来受け継がれてきた石碑など、伝承施設は多岐にわたっている。(写真－6)



奇跡の一本松 津波の石碑
写真－6 震災伝承施設の例

登録された伝承施設は訪問や理解のしやすさ等に応じて第1分類～第3分類に分類されている。第3分類は、駐車場、案内人や多言語対応などの受け入れ環境が最も整っているカテゴリであり、施設の案内標識に震災伝承施設の標章（ピクトグラム）（図－1）を使用することができる。

令和元年5月には、岩手県宮古市田老地区において、ピクトグラムを用いた案内標識第1号が設置された。(写真－7)



図－1 ピクトグラム



写真－7 案内標識

(2) 復興祈念公園の整備

震災伝承施設のほとんどは自治体により整備・管理されているが、東北地方整備局が関わっている施設の例を一つ紹介する。

東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信のため、国が整備する「国営追悼・祈念施設（仮称）」を核とする復興祈念公園の整備が国・県・市・町の連携により進められている。このうち岩手県陸前高田市に整備される高田松原津波復興祈念公園が令和元年9月に一部オープンした。

この公園内には震災の貴重な教訓を展示する「東日本大震災津波伝承館」が整備されており、震災伝承施設として登録されている。5つのゾーンで構成される展示スペースは1,000㎡を超える広さである。

このうち「教訓を学ぶ」ゾーンでは、東北地方整備局の災害対策室が移築されており（写真－8）、くしの歯作戦をはじめとするインフラ関係者の初動対応をつぶさに体験することができる。また、津波警報が発令されている中で現場の最前線で道路啓開を担った建設業関係者の活動も、作業員の生の声とともに展示されている。当時の緊迫した雰囲気と、様々な関係者の苦悩と行動がひしひしと伝わってくる。これらは官民のインフラ関係者が災害対応に臨む事前の心構えを身につけるのに必見のものとと言える。加えて、一般の方々にもご覧いただくことで、災害時の建設業界の役割に関する理解が深まることも期待できる。



写真－8 東北地方整備局災害対策室（移築）

5. 産学官民の連携

震災伝承ネットワーク協議会の取り組みの実施にあたっては、東北4県にまたがる広域性、震災伝承という持続性、伝承ロードの構築という新規性が求められることから、同協議会の下で「震災伝承検討会」（座長：今村文彦 東北大学災害科学国際研究所長）を設置し、協議会の取り組み方針等について産学官の有識者から広く意見をいただいた（図－2）。

検討会では協議会の取り組み方針に賛同いただき、教訓を伝えるための取り組みについてさまざまな提案があげられた。震災伝承施設を巡って学ぶためのホームページやパンフレットの作成、企業や地域社会、修学旅行向けの防災教育プログラムの提供、防災ツーリズム等のツアーの提案などである。平成31年3月にまとめていただいた提言では、幅広い取り組みとするため、産学官民の連携した推進体制を早急に構築すべきとのとりまとめをしていただいた。産学官民の連携による「3.11伝承ロード」の構築が求められている。（図－3）

各機関の連携体制への気運が盛り上がる中、学术界、経済界が中心となってこの取り組みを支援する一般財団法人「3.11伝承ロード推進機構」が令和元年8月に設立され、活動がスタートした。

震災伝承検討会の提言で指摘されたとおり、「3.11伝承ロード」の取り組みには産学官民の連携が不可欠であり、3.11伝承ロード推進機構の今後の活動に大いに期待するところである。

【座 長】	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長
【委 員】		
学識者	南 正昭	岩手大学教授
	小沢 喜仁	福島大学教授
	涌井 史郎	東京都市大学特別教授
民間団体	海輪 誠	(一社)東北経済連合会会長
	鎌田 宏	東北六県商工会議所連合会会長
	小縣 方樹	(一社)東北観光推進機構会長
	平田 尚久	(一社)日本建設業連合会東北支部長
	千葉 嘉春	東北建設業協会連合会会長
	等々力 健	日本放送協会仙台放送局長
自治体	小林 眞	八戸市長
	山本 正徳	宮古市長
	亀山 紘	石巻市長
	清水 敏男	いわき市長
【アドバイザー】		
	徳山 日出男	政策研究大学院大学客員教授

図-2 震災伝承検討会委員

6. おわりに

「防災意識社会」の構築には、行政・住民・企業のそれぞれの主体が、災害リスクに関する知識と心構えを自分ごととして理解しなければならない。しかしながら、これを実体験として学べる場所はまだまだ限られていると言ってよい。

そのような中、戦後最大の自然災害を受けた東北には、発災当時の実情・教訓をリアルに伝える資料、写真、映像、構造物、建物などがたくさん残されている。また、当時の様子を詳しく伝える語り部活動も盛んに行われている。これらの貴重な防災学習の機会を全国各地の防災力向上に活かさない手はない。

折しも、3.11伝承ロード推進機構では、ニーズに応じて震災伝承施設を巡り学ぶ防災・伝承ツアーをスタートしたところと聞いている。災害が起きてからでは遅い。「3.11伝承ロード」の取り組みは始まったばかりであるが、行政・住民・企業のそれぞれにとって、この先駆的な取り組みが全国各地の防災意識社会構築の手掛かりとなれば幸いである。

※) 震災伝承施設ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/sinsaidensyousu/sisetsu/index.html>

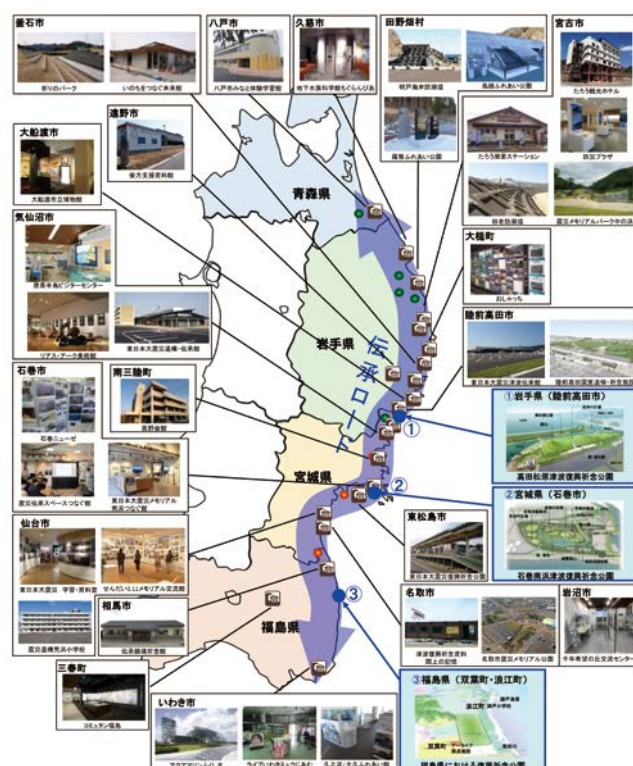


図-3 「3.11伝承ロード」のイメージ

フィリピン共和国という国

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 北 原 一 彦

1. はじめに

昨年度、JICA 委託業務でフィリピンのマニラに渡航しました。観光リゾート地や留学先として有名なセブ島は知っている人も多いかもしれませんが、国名は知っていてもどんな国なのかよくわからない人の方が多いのではないのでしょうか（私がそうであっただけです）。

そこで、フィリピン（特にマニラ周辺）について少しだけご紹介したいと思います。

2. フィリピン国の概要

フィリピン共和国は、東アジアに位置する立憲共和制国家であり、周囲を南シナ海等、海に囲まれた7000以上の島を有する島国です。

首都は、最も面積の大きいルソン島の中西部に位置するマニラで、人口は2000万人を超える世界有数の大都市です。



国名のフィリピンは、16世紀の旧宗主国スペインの皇太子フェリペ（後の国王フェリペ2世）が由来とことです。かつてのスペイン国、アメリカ合衆国の植民地時代、日本軍による占領時代を経て独立し、現在に至っています。地名は、スペイン植民地時代の名残でスペイン語読みのものが多いです。

公用語はタガログ語と英語。宗教はキリスト教（カトリック）が多くを占めます。

3. フィリピンの気候

フィリピンは熱帯海洋性気候で1年中暑く、季節は夏と秋のみで6月～10月は雨期となります。

気温は20℃～32℃程度で、時には35℃を超えることもあり一年中半袖でも過ごせますが、日差しが非常に強いので肌が弱い人は要注意だと思います。

4. フィリピン人の人となり

フィリピン人は、総じて明るく陽気でおおらかだと思います。よく笑い、よく歌う。例えば、コンビニ等の店員は、鼻歌等は当たり前。レジに客の列ができていても店員同士おしゃべりをしながら対応していることも・・・（すべてではありませんが）。しかし、これを咎めるような人はいません。また、親切でフレンドリーであると思います。初対面でも友達のように接してきます（少し怪しい人もいましたが）。

反面、時間には非常にルーズであり、業務の打合せ等も時間通りに始まることは数少ないです。また、お金に対してもルーズで、貯金するという感覚がなく貰った給料は次の給料日まで使い切ってしまうのが一般的とことです。このため、給料日が月2回に分けられている会社が多いらしいです。

5. マニラの町並み

私はフィリピンには今回はじめて渡航しましたが、はじめの印象は、高層ビルが立ち並んでおり思いのほか都会であると感じました。



写真1－マニラ市内の様子①



写真2－マニラ市内の様子②



写真3－マニラ市内の様子③

写真1はマニラを流れるパッシング川沿いに広がるビル群の様子、写真2はマニラ市内でも比較的新しいオフィス街であるオルティガス（Ortigas）というところで、宿泊ホテルからの眺めで、手前の低層建物はアジア開発銀行の本部、写真3は同じくオルティガスで、いたるところで高層ビルの建設が行われています。日本と違うのは、安全対策が緩いのと、ビル建設がすべて終わる前にテナント、住居者を入れてしまうところですが、東南アジア諸国では当たり前なのかもしれません。

ビル群を少し離れると16世紀に造られた高い壁に囲まれた要塞都市（イントラムロス）や歴史的建造物も点在し、新旧入り混じる魅力ある町であると思いました。



写真4－イントラムロスの入り口



写真5－イントラムロス内の城塞跡



写真6－マニラ大聖堂

また、マニラ市中心部から少し離れると現代的な建物を有する美術館や街の夜景を眺められるレストラン等もあり、家族連れやカップルの姿を見るとあまり日本と変わらないところも多々あると思いました。



写真7－Pinto Art Museum

もちろん、ビル群を少し離れるとスラム街や路上生活者も多く、貧富の大きな差を感じました。国民の20%以上が1日1ドル以下で暮らしているとの話もありますが、生活が質素であっても明るく笑顔で暮らす人が多いとのことでした。



写真8－川沿いのスラム街

マニラ中心部を少し離れると、のどかな田園風景や地方の田舎町、歴史的建造物等々、東アジアらしい雰囲気を感じられます。



写真9－郊外の田園風景



写真10－郊外の町並み（大雨後）



写真11－旧鉄道橋



写真12－旧鉄道駅舎（サンフェルナンド駅）

6. マニラの交通事情

マニラは交通渋滞が東南アジアで最もひどいと言われており、経済損失は1日50億円とも言われています。これは国の急速な発展に対しインフラ整備が全く追いついていないためですが、特に鉄道網が圧倒的に不足していることが主要因であると考えます。

写真13は、マニラの主要幹線道路である EDSA 通りの渋滞状況です。中央に走るのが LRT ですが、通常の鉄道より輸送力は低く、ラッシュ時には電車を3,4本待たなくては乗れないこともある位混雑しています。



写真13－マニラ市内の交通渋滞状況（EDSA通り）

よって、人々の足は車が主体となり、渋滞解消には程遠い状態です。これに対し現在、マニラ都市圏ではLRT等、既存鉄道の延伸、地下鉄、通勤線等、大規模プロジェクトが動いています。

鉄道以外の庶民の足は、多くの人々はバイク、バス、ワゴンタクシーの他、ジブニーと言われる乗り合いタクシーなどを使っています。ジブニーは窓がついていないので排気ガス臭く、揺れも強く、乗客ですし詰め状態が多いため、決して乗りごちの良いものではありません。また、スリの被害もよくあるらしいので、乗る際は気を付けた方がいいと思います。日本人の観

光客でしたら、Grabタクシー（Grab Taxi）が安心で便利と思います。



写真14－フィリピンの乗り合いタクシー（ジブニー）

ちなみに、夕方～夜にかけての乗り合いタクシー乗り場は、毎日のように長蛇の列ができていました。



写真15－乗り合いタクシー乗り場の混雑状況

7. フィリピンの食べ物

フィリピンの代表的な料理と思われるものを以下に挙げます。フィリピン料理は総じて甘めの味付けが多く、また、暑い気候の中、冷蔵庫がない家庭も多いとのことで、少し塩辛い味付けのものが多く感じました。機会がありましたらぜひ食べてみてください。ちなみに、マニラ市内には日本食をはじめ、多くのレストランがありますので、食べ物で困ることはないと思います。

① Sinigang（シニガン）

肉や魚が入った酸味が強い野菜スープ。多くのフィリピン人が好み、日本の味噌汁のような“家庭の味”のように感じた。

② Adobo（アドボ）

肉や野菜の煮込み料理の総称（多くは豚肉?）。見た目、味ともに「豚肉の角煮」に似ているがやや甘めの味付け。

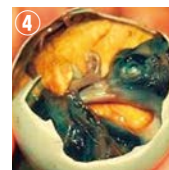


③ Lechon（レチョン）

炭火で一頭の豚を丸ごと焼いたもので、収穫祭などの行事で欠かせない料理。焼き豚。

④ balut（バロット）

孵化直前のアヒルの卵を加熱したゆで卵。味は固いゆで卵といった感じで、酢や塩をかけて食べるもの。ただ、私が聞いた限りですが、多くのフィリピン人が嫌いとのことでした。



8. その他

フィリピンには多くの火山があり、マニラのあるルソン島には1991年に20世紀最大規模と言われる大噴火を起こしたピナトゥボ山やルソン富士とも言われているマヨン山が有名です。ピナトゥボ火山の大噴火では、火山灰等の影響により国営鉄道が廃線となったり、米空軍基地が撤退したりと大きな影響を受けています。また、先日マニラ近郊で避暑地ともなっているタガイタイ（Tagaytay）そばにあるタール山が噴火し、マニラ市内にも降灰があったとのことで、火山が非常に身近であり日本にも似た国であると感じました。



写真16－タール山の噴火

9. おわりに

日本から飛行機で約4時間程度と比較的近いマニラですが、台湾とも異なり東南アジア諸国と似た南国の雰囲気を感じられると思います。機会があればぜひ訪れてみてください。

東北地方整備局若手職員×建コン協若手の会 交流会

東北支部 総務部会 若手の会
大日本コンサルタント株式会社 椎 名 昌 士

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会東北支部若手の会では、東北地区で計4回の交流会を開催してきた。建設コンサルタント業界の若手技術者と交流し、「今後の建設業界」、「働き方」等における問題・解決策を模索してきた。今後は、協会以外の建設業従事者、他業種など、幅広い分野の若手職員と交流を行い、建設業界全体のさらなる発展に寄与していきたいと考えているところである。

今回は、国土交通省東北地方整備局との若手職員交流会を開催した結果を報告する。交流会は、立場の垣根を越えた意見交換により、業界の魅力度向上や活性化の一助の機会とすることを目的として開催した。

2. 交流会概要

(1) 日時

2019年9月6日（金）14：00～17：50

(2) 場所

国土交通省 東北地方整備局 12階 大会議室

(3) 参加者

国土交通省 東北地方整備局 若手職員 10名
建設コンサルタンツ協会 若手職員 11名

(4) 交流方法

グループディスカッション方式

(5) テーマ

テーマ①：業界に入った時の思いと現在

入職時の建設業界に対する思いと現在を対比し、乖離（プラス、マイナス）を探るためのテーマとした。今後、乖離を手掛かりに、東北地方の建設業界における若手の確保（建設業界の魅力の再認識、新たな魅力創出、離職防止、意識・技術の向上、など）を推進することが狙い。

テーマ②：東北地方の現状と明るい近未来のために

我々が身を置く東北地方について、良い点や良くしたい点を共有し、明るい近未来のために話し合うテーマとした。若手らしい前向きな意見交換を通して明るい近未来を作るための意識改革へと繋げたい。近未来の目標年次は若手職員が業界を牽引している30年後（2050年）を想定する。

時 間	所要時間	内 容
14:00～		受 付
14:20～14:50	(10分) (10分) (10分)	開 会 ◆開会挨拶 ・東北地方整備局 企画部長 ・建設コンサルタンツ協会 東北支部 総務部会長 ◆交流会の主旨説明 (テーマ意図、交流会の進め方などを司会者より)
14:50～15:40	(50分)	テーブルディスカッション ◆テーマ① 業界に入った時の思いと現在 ◆テーマ② 東北地方の現状と明るい未来のために
15:40～15:55	(15分)	休 憩 (ディスカッション席移動)
15:55～16:45	(50分)	テーブルディスカッション ◆テーマ① 業界に入った時の思いと現在 ◆テーマ② 東北地方の現状と明るい未来のために ◆テーブル毎のまとめ（10分程度）
16:45～17:15	(30分)	テーブルディスカッション ◆発表（各テーブル代表者）
17:15～17:30	(15分)	テーブルディスカッション ◆他テーブルの内容を見る時間
17:30～17:50	(5分) (5分) (5分) (5分)	閉 会 ◆講評 ・東北地方整備局 企画部 技術調整管理官 ・建設コンサルタンツ協会 総務部会長 ◆記念撮影 ◆片付け

3. 交流会内容

(1) テーマ①について

入職時の思いについて、個人差はあるものの東北地方太平洋沖地震の経験から入職した方が多く、災害復興へ携わりたいという方や、次に起こり得る災害から人を守るようなインフラ整備をしたいという方が多くいる印象を受けた。その他にも、学校で学んだ知識を生かして社会貢献したいという方や、家族の影響で土木の仕事をした方など、入職するきっかけは様々であった。

テーマ①の現在について、ポジティブな意見からネガティブな意見まで数多く出た。代表的な意見を挙げると、ポジティブな意見として、「やりたかったことに携われている」、「技術力の向上により復興の力になれていると感じる」、「当初携わる予定のない業務へ従

事した際に、興味の幅が広がる」等が、またネガティブな意見として、その逆の意見の他に、「物事（事業）の完結まで携われない」、「公共施設が故に設計の自由度が低い」、「技術外（事務処理）の仕事割合が多い」等が挙げられた。

過去を振り返り、各自の仕事の“今”を棚卸しすることによって、自身がどうなりたかったかということ、また自身の近未来像に向けたロードマップを描くきっかけになったと考えている。

(2) テーマ②について

東北地方の現状について、「過疎化が進み人口減少が進んでいること」や、「高齢化が顕著に進んでいること」が挙げられた。明るい近未来のためのテーマとして「人口を減らさないこと」を掲げ、今より住みやすい環境づくり（インフラ整備）の提案があった。具体的には、「単線鉄道を複線化」、「路線バスや鉄道網、道路網の拡充」、「自動運転の実現化」等が挙げられた。

その他にも、東北地方の現状を「自然豊かであること」、「広い土地を有していること」、「公園が多くあること」とし、より多くの観光客誘致が可能ではないかという明るい近未来を挙げているグループもあった。具体的な誘致方法までのディスカッションには至らなかったが、広報紙等の見せ方の工夫、インフラスタンプリヤーなどのキーワードが挙げられた。

上記に示す内容の他、一つのグループから「今が幸せ」とあった。国民が当たり前と感じている日常は、我々がいないことには成り立っていないのではないか、という気付きである。「道のこと」、「公園のこと」、「川のこと」などについて考える仕事（事業化、設計、施工、そして維持管理）の結果、その日常（幸せ）を提供出来ているということ、これも明るい近未来のためには必要不可欠なこととして挙げることが出来る。

現状取り組んでいることを継続しつつ、東北の暮らしを良くするインフラ整備の在り方や未来像について考えることが、明るい東北を創成する“きっかけ”及び“結果”につながるのではないか、と気付かされる機会にもなった。



▲グループディスカッションの様子



▲発表の様子

4. おわりに

今回の若手職員交流会を通じて、普段の仕事からは得られない価値のある時間を過ごすことが出来た。知らないもの同士だからこそ話せる本音からか、土木に対する熱い思いを聞き感化され、仕事のモチベーションが高まったとの意見もあり、業界発展・活性化の貢献につながる機会だったと考える。

また、現場見学なども一緒に行うことが出来れば、互いの考え方を共有し業務を遂行する上で参考になるのではないかと意見もあり、今後の交流会の開催の仕方について検討する余地があると感じた。

当初目的である「業界の魅力度向上や活性化の一助の機会」としては、十分な達成度があったと考える。

スポーツ観戦のすすめ ～RUGBY WORLD CUP JAPAN日本2019から東京2020オリンピックへ～

パシフィックコンサルタンツ株式会社 鬼久保 浩 正

観客動員数170万4443人、1試合平均3万7877人、最多観客動員7万103人、日本の成績は4勝1敗。予選プールを全勝で1位通過し史上初の決勝トーナメント進出。R16で優勝国の南アフリカに敗退。

以上が RUGBY WORLD CUP JAPAN日本2019大会における主な数字・結果である。

【はじめに】

スポーツ好きで、野球、バレー、サッカー、フットサルなどいろいろなスポーツをやってきた。観戦することも好きで、やる以上に多くのスポーツを観戦してきた。テレビ観戦もいいが、スタジアムに足を運び、ライブでの観戦が良い。特に海外での大会に足を運ぶと、世界を舞台に戦う日本代表を応援することができるし、同じように海外まで来ている観戦仲間も沢山できる。サッカーワールドカップは日韓大会以降、ドイツ、南アフリカ、ブラジル、ロシアと毎大会現地観戦し、ライフワークになった。

【ラグビーとの出会い】

ラグビーと出会ったのは大学在学中に訪れたニュージーランドでのことだった。いわずと知れたオールブラックスの国、世界最強のラグビー王国である。当時の日本ラグビーとは異なるボールがスピーディーに動くアタッキングラグビーが主流であったほか、国内選手権を滞在地クライストチャーチがあるカンタベリー州が制しスタジアム観戦も経験したこと、さらに、このシーズンのオールブラックスが1引き分けのみで他は全て勝利とすこぶる強かったこと、ラグビーの国でラグビー好きに囲まれてラグビーに触れたことで、一気にラグビーに魅了された。ちなみに私が大学時代を過ごした東京都府中市には東芝府中とサントリーという強豪チームが二つあるラグビーの街でもあった。

【ラグビーの母国イングランドでのワールドカップ】

ワールドカップは、サッカーもラグビーも4年毎にやってくる。サッカーワールドカップ現地観戦をライフワークとしているが、ラグビーとなるとなかなか荷

が重い。2019年大会は日本で開催されることが決定していたものの、日本国内でのラグビー人気はそこまでではなかったし、日本のワールドカップでの戦績は当時1勝2分21敗と、世界で全く歯が立たない状況が続いていた。そんな中で日本開催を控え、海外でのラグビーワールドカップがどんなものか見てみたいと思い、2015年のイングランド大会に会社のリフレッシュ休暇制度を利用して現地観戦することにした。

この大会の初戦、南アフリカになんと日本は勝ってしまった。ブライトンの奇跡と後に呼ばれる一戦である。私は世界一にもなったことのある南アフリカには流石にかなわないだろう、深夜の試合は録画して後で見ればいいなと呑気に寝ており、世紀の大勝利を見逃してしまった。不覚である。しかし、その後の2戦目のスコットランド戦には敗戦、予選突破が微妙になってきた。自分が現地観戦する3戦目のサモア戦、4戦目のUSA戦が重要になってくる。初の予選プール突破を勝ち取るためにイングランドへ飛んだ。

イングランド大会では、人気の国同士の試合で8万人超えのスタジアムが満員になるだけでなく、地方での日本の試合にも、地元のラグビーファンが押しかけてスタジアムは一杯になっていた。日本は見事サモアにもUSAにも勝利をおさめたが、やはりスコットランド戦での敗戦が響き、ワールドカップ史上初の3勝しながら予選プールで敗退する国となるという、残念な結果となった。

イングランドで見た満員のスタジアムでラグビーに熱狂する人々。地元イングランドやラグビー強豪国と



は関係のない日本対サモアや、日本対 USA の試合であっても満員になるスタジアム。果たして日本大会の日本戦以外の試合で、これだけの観客でスタジアムが埋まることはあるのだろうか？と不安に感じたことを覚えている。

【大盛りあがりだった日本大会】

前大会での私の不安は全く杞憂に終わった。大会のチケットは何次販売であっても入手困難で、大会が開幕するとスタジアムは何処も満員。日本戦ではなくとも、地方開催であってもそれは変わらなかった。

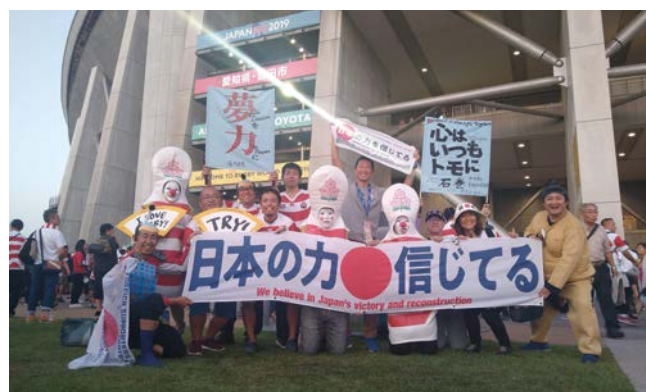
私も日本戦4試合、オールブラックス戦3試合、釜石開催1試合、花園開催1試合ほか合計9試合を観戦し、会場も釜石、東京、横浜、静岡、豊田、東大阪、大分と訪れることができた。東北唯一の開催都市となった釜石では、東日本大震災の津波被害を受けた鶴住居地区に新設された鶴住居スタジアムに、フィジーやウルグアイはじめ世界中からラグビーファンが訪れた。釜石の人達も思い思いの方法でもてなしをした。まだまだ復興は続くが人で溢れた釜石を見られ嬉しかった。

世界ランキング1位で日本の予選プール最大の山場となったアイルランドからは緑の軍団が押し寄せ、前評判通り、試合前、試合中、敗戦した試合後でも、ものすごい量のビールを飲み続けていた。そんなアイリッシュ達と一緒にビールを飲むのもワールドカップ



現地観戦の醍醐味の一つだ。

日本代表はその愛称である「ブレイブ・ブロッサムズ (BRAVE BLOSSOMS)：勇敢な桜戦士」の名の通りの戦いを魅せてくれた。何かと話題となった、外国籍の選手の多さも、多様なバックグラウンドを持つ人が集り ONE TEAM となることでこれまで以上の大きな力となることを示してくれた。



【今年は東京オリンピック】

ラグビーワールドカップに続き、今年は東京オリンピックが日本で開催されます。東北でも宮城スタジアムで男女のサッカーが、福島で野球とソフトボールが開催されます。世界からやってくる人達との交流を楽しみに、仙台市都市ボランティアにも登録しました。

オリンピックのような4年に1回、いえ日本開催でいえば56年に1回のビックイベントではなくとも、仙台には、楽天イーグルス、ベガルタ仙台、仙台89ers、ヴォスクオーレ仙台、リガーレ仙台など各種スポーツチームがあります。東北に広げれば、各地にも何らかのスポーツチームはあります。皆さんも現地に足を運んで大きな声で声援を送ったり手をたたいたりして盛り上がりませんか？ストレス解消にもなりますよ。

また、ボランティア等で運営スタッフに加わる方法もあります。観戦仲間やボランティア仲間が出来れば楽しさは倍増です。週末のプチ脱日常にスポーツ観戦をお勧めします。

カーティスクリークの女神に会いたくて

株式会社 復建技術コンサルタント 荒木孝廣

春は大地の芽吹き、サクラマスに会える時

寝静まった街には千鳥足の靴音が残る。カーティスクリークの女神に会いたくて、今日こそはと自分を鼓舞する八神純子のポーラスター♪を聞きながら北を目指す。日の出までにはフライを流したい。



フライフィッシングにハマった20代

思えば、国産釣具のカatalogにルアーやフライの紹介があって、いつか洋風釣りをしたいと憧れがあった。

ロッドやリール、フライタイイングに必要なマテリアルやフライ関連の参考書も乏しい中で、フライフィッシングの発祥の地イギリスでノウハウを学んだ沢田賢一郎さんに出会い、どっぷりフライフィッシングの魅力に取りつかれた。今は釣行回数がだいぶ減ってしまったが、源流から河口へとポイントを探し、長いこと飽きもせずに楽しんでいる。

17フィートのダブルハンドロッドが好きだ

溪流釣りは繊細で忍者のごとく音もなく、7フィートのシングルハンドロッドを操り、イワナやヤマメと遊ぶ。溪流に棲むカゲローを模したフライをポイントへプレゼンテーション、緊張する瞬間だ。するとマーチブラウンに小さな飛沫が飛ぶ。ヒットだっ！無意識のままロッドを立てるとラインから伝わる生命反応が心地良い。

でも、60cm オーバーのサクラマスに興奮する。

サクラマスは溪流で生まれたヤマメが海に下って成長する魚で、やがてサクラマスと名前を変え、桜が咲く頃に生まれ故郷に産卵のために遡上する生態である。

遡上する頃は餌を捕食しなくなり、難しい釣りを強いられる。冷たい風が吹きさらす河口で、腰までウェーディングし寒さと冷たさに耐え、サクラマス攻略をブツブツつぶやき、黙々と17フィートのダブルハンドロッドを振る。10インチのチューブフライを50ヤード先のポイントに何度も何度も時間を忘れキャストするのである。



フライタイイングの時間

イギリス産業革命の頃、貴族の遊びであるフライフィッシングは様々なパターンのサーモンフライが作出され、現在も多くのアングラーがレシピを基に再現し、また改良して実釣で使われている。

今年はどのフライで狙おうか。やはり沢田さん考案のアクアマリンかローズマリーかな。スペイフライパターンのレディーキャロラインやブラックフェアリーも準備しよう。ビバルディーの四季を聞きながら遠く流れる川を思い浮かべ策を練る。解禁が迫り、心地よい焦りを感じながらフライを丁寧かつ慎重にタイイングする。さて、今年こそ女神は微笑んでくれるかな。

建設コンサルタント業界に従事して思うこと

株式会社 復建技術コンサルタント 鷺田 なぎさ

1. はじめに

本稿を執筆するにあたり、自身の経歴を振り返りましたが、入社してからおよそ7年が経過したことに気づき、時間が過ぎる速さに驚くとともに、まだまだ技術者として半人前なのでほんの少しの焦燥感を覚えているところです。普段は目の前の業務をこなすことに集中しており、普段の仕事や自身がいる業界のことについて考えることはないので、今回本稿を執筆する機会を与えて頂いたので、少し考えてみることにしました。

2. 仕事の良いところ

入社してから、自然環境調査や生活環境調査、環境アセスメント、土壌汚染、再生可能エネルギーなど建設環境部門の様々な仕事に携わることができました。それぞれの分野で内容が異なるため、覚えることが多く大変ですが、飽き性な私としては様々な分野に携わることができていることが仕事のモチベーションにつながっています。自然環境調査では、フィールドワークが多く、自然の中での仕事が良いリフレッシュとなっています。また、私は、元々プレゼンやコミュニケーションをとることが苦手でしたが、顧客への説明や提案を通じて徐々に克服することができ、この仕事をして良かったと思っています。

私は、職場環境にも恵まれ、仕事を調整すれば長期休暇を取得することができ、趣味の旅行に行きやすい環境にあります。昨年にはオーストラリアのエアーズロックに行き、雄大な大地を楽しむことができました。



サンセットのエアーズロック

3. 業界に対して思うこと

普段仕事をしていて残念に思うことは、建設コンサルタント業界は専門性が高く、他業界との交流が少ないように感じます。他業界から刺激を受けて変化する機会が少ないためか、変化が緩慢であり、特に労働環境の整備については世の中の流れから遅れをとっているような気がします。

例えば、この業界ではよく「女性技術者」に限定して出産や育休等の制度の整備や充実を課題に挙げていますが、この問題は男女の垣根を越えて議論されるべきであり、女性とともに男性の育休推進を行うべきではないでしょうか。男性の意識改革が女性特有と思われがちな出産等の制度への理解へつながると考えます。今後は介護の問題もあり、画一的な労働環境では人材の確保に苦労すると思います。個人の事情やライフステージに応じて短時間勤務が認められるなど、多様かつ柔軟な働き方が選択できるように、業界として後押しが必要だと考えています。

水環境の総合建設コンサルタントを目指して

株式会社アルファ水工コンサルタンツ仙台事務所 所長 阿 部 勝 美

・はじめに

当社は「海と沿岸域」を専門としたコンサルタント集団として、沿岸地域の防災力向上や地域振興に貢献すべく、漁港・港湾・海岸などの調査・計画・解析・設計・維持管理等の工程を一貫通貫して執り行っています。

・沿 革

昭和59年に創業以来、地域に根ざしたコンサルタントとして公共事業に従事してまいりました。現在は、札幌・東京を拠点に、青森、盛岡、秋田、仙台、千葉、九州に事務所を構えています。

・事業内容

海洋を含めた流域一貫での防災、産業活動の安全、環境の保全、水産物の増産、レクリエーションの促進、沿岸域の管理などを高度に実現するために、専門知識と応用力を蓄えながら、さらに一步先を常に目指しています。具体的には、四面環海であるが故に自然災害が多発する日本で培ってきた自然科学、智慧、経験を融合することで、活きた技術サービスをグローバルに繰り広げています。

◆基盤整備

これまで主として調査・計画・解析・設計等の業務において事業者である「国」「地方公共団体」の事業執行を支援し、パートナーとしてハード・ソフト対策の検討を担ってきました。

中央省庁である国土交通省や水産庁が策定する「マニュアル」「整備基本計画」となる大柱の検討に従事した経験を多数有するとともに、国の施策に合致させ「地元」に落とし込んだ各種検討を実施しております。沿岸域の各種調査、港湾・漁港・海岸の整備計画、沿岸地域の振興計画、事業評価、設計・施工検討、建築設計などが得意分野です。

◆災害復旧、防災・減災対策

東日本大震災によって発生した大津波は、地震とともに東北・関東地方の沿岸地域に甚大な被害を生じさせました。弊社は東日本大震災の復旧事業にかかる調査・計画・設計に携わってまいりました。

また、昨今は、各地で地震、水害等が激甚化・頻発化しています。このように変わりゆく自然現象を踏まえながら、各地域に対応した災害復旧、防災・減災対策を提案していきます。

◆水環境、水産資源

沿岸域は、多様な生物が生息している場所であり、水質浄化機能や生物生息・生物生産機能の生態的機能だけでなく、景観やレクリエーション等の社会的機能をも有しており、私たちに豊かな恵みを与えてくれます。

当社は、水環境に係る調査や解析に基づいた環境評価によって、沿岸域の開発等に係る影響、保全計画、新たな環境創出等を検討しています。

また、水産資源の持続的な利用や増養殖に係る検討や水産エコラベルに関するコンサルティングを行っております。

◆GIS、UAV、ICT活用

ICT分野の発展は目覚ましく、日本の国家戦略として、ICT技術を活用した社会基盤整備が求められています。このような中、当社は港湾・漁港・海岸等多岐に渡る分野において、GIS、UAV、ICTを活用しています。また、i-Constructionの推進に係る3D測量・モデリングに取り組んでいます。

・おわりに

昨年度、港湾計画に関する業務で東北地方整備局局長表彰を頂くことができました。今後とも、建設コンサルタンツ協会の一員として、国、地方公共団体および関係者をサポートし、東北地方の発展に貢献する所存でございます。

ALCグループ

 株式会社 アルファ水工コンサルタンツ
Alpha Hydraulic Engineering Consultants Co., Ltd.

- ◆東京本社 〒104-0045東京都中央区築地三丁目9-9
ラウンドクロス築地9F
- ◆北海道本社 〒063-0829札幌市西区発寒9条14丁目516-336
- ◆仙台事務所 〒985-0874宮城県多賀城市八幡3丁目10-27
わだやビル2F

<https://www.ahec.jp/>

令和元年度 意見交換会について

建設コンサルタント協会の重要事業としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタント協会本部の「要望と提案事項」に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事会に諮り議題を決め、令和元年9月30日の岩手県県土整備部を皮切りに11月12日の宮城県土木部で終了しました。

岩手県県土整備部との意見交換会

日 時 令和元年9月30日

出席者 (県) 中平河川港湾担当技監他 8名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 17名



中平 河川港湾担当技監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

青森県県土整備部との意見交換会

日 時 令和元年10月17日

出席者 (県) 新井田 県土整備部長他 11名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 17名



新井田 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

秋田県建設部との意見交換会

日 時 令和元年10月8日

出席者 (県) 佐藤 建設産業振興統括監他 8名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 21名



佐藤 建設産業振興統括監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

山形県県土整備部との意見交換会

日 時 令和元年10月24日

出席者 (県) 角湯 県土整備部長他 10名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 21名



角湯 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. 自由討議

支部活動報告

宮城県土木部との意見交換会（3団体合同）

（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

（一社）宮城県測量設計業協会

（一社）全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

日 時 令和元年11月12日

出席者 （県）金子 土木部技監兼次長 他 9名

（協会）菅原支部長他 3団体 41名



金子 土木部技監兼次長のご挨拶

議 題（協会）

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力重視による選定と入札契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保・向上
4. 各協会からの要望と提案

仙台市との意見交換会

日 時 令和元年11月28日

出席者 （仙台市）小野 都市整備局長他 6名

（協会）菅原支部長他幹事 21名



鈴木 都市整備局長のご挨拶

議 題（協会）

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

東北地方整備局との意見交換会

日 時 令和元年12月17日

出席者 （整備局）西尾 企画部長他 8名

（協会）菅原支部長他幹事 18名



西尾 企画部長のご挨拶

議 題（協会）

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定について
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

「第10回 復興加速化会議」が開催される。

令和2年1月18日「第10回復興加速化会議」が東北地方整備局大会議室で開催されました。

この会議は、東日本大震災の被災地の復興を加速化するため、これまで施工確保のための様々な取り組みを行い、迅速な復旧・復興に務めてきた中で最近の復旧・復興に係わる状況について認識を共有し、さらに復興を加速させるため、赤羽国土交通大臣、和田政務官出席のもと岩手・宮城・福島3県知事、仙台市長、国土交通省・復興庁・農林水産省及び経済産業省の国の機関が出席しました。

また、復旧・復興に取り組んでいる業界団体として東北支部外7団体が出席し、当協会からは菅原支部長が出席しました。

会議は赤羽国土交通大臣の挨拶に始まり、引き続き国の各機関・被災3県・仙台市及び業界団体から復旧・復興の進捗状況等のこれまでの対策と今後の取り組みについて報告がなされました。

最後に、赤羽国土交通大臣から以下の発言（ポイント）がありました。

- 基幹インフラの復旧、住宅再建やまちづくりは着実に進んでいる。引き続き全力で取り組み、「実感できる復興」に繋げていきたい。
- 県知事・市長の皆様からの「復興係数を継続することが復興事業進捗のために重要」との意見を受け止め、「復興係数」を継続する。
- 建設業が「地域の守り手」という重要な役割を担っていくためには東北全体に「生産性向上」と「働き方改革」を浸透させていくことが重要。
- 地方公共団体等の更なる連携による新たな対策を加えながら「東北復興働き方・人づくり改革プロジェクト」の推進に取り組む。
- 震災の実績や教訓を伝承する「3.11伝承ロード」の取り組みについて、引き続き関係者が一体となって、より一層加速していくように願う。

会議終了後、復旧・復興に向け出席者全員による写真撮影が行われました。



〈会議概要資料について〉

※東北地整HP（下記アドレス）に関係資料をアップしております。

http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/K00360/taiheiyouokijishinn/kasoku_1-5/index.html

令和元年度 RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャ（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し27年になります。平成7年度に国交省は標準契約約款の策定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又はRCCM資格保有者と規定されました。

令和元年度のRCCM資格試験は令和元年11月10日に仙台会場（東北工業大学）で実施され、528名が受験され、218名が合格しました。

なお、令和2年度のRCCM資格試験は、令和2年11月8日の予定です。

令和元年度受験地別・部門別合格状況

試験日 令和元年11月10日

合格発表 令和2年 2月28日

受験地 部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			高 松			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
1. 河川、砂防及び海岸	135	84	62.2%	134	67	50.0%	221	110	49.8%	9	8	88.9%	66	28	42.4%	98	47	48.0%	77	37	48.1%	67	24	35.8%	62	19	30.6%	869	424	48.8%
2. 港湾及び空港	51	27	52.9%	18	13	72.2%	31	10	32.3%	6	2	33.3%	3	1	33.3%	5	1	20.0%	1	0	0.0%	4	2	50.0%	3	2	66.7%	122	58	47.5%
3. 電力土木	17	8	47.1%	4	2	50.0%	2	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	2	1	50.0%	6	2	33.3%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	34	15	44.1%
4. 道 路	248	95	38.3%	154	50	32.5%	211	77	36.5%	42	11	26.2%	70	31	44.3%	132	52	39.4%	111	42	37.8%	56	25	44.6%	82	19	23.2%	1106	402	36.3%
5. 鉄 道	9	5	55.6%	13	9	69.2%	6	4	66.7%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	11	9	81.8%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	40	27	67.5%
6. 上水道及び工業用水道	45	15	33.3%	42	11	26.2%	43	19	44.2%	27	8	29.6%	5	1	20.0%	32	19	59.4%	19	10	52.6%	10	7	70.0%	21	7	33.3%	244	97	39.8%
7. 下水道	81	25	30.9%	59	27	45.8%	34	15	44.1%	9	3	33.3%	2	1	50.0%	27	15	55.6%	20	8	40.0%	14	9	64.3%	10	9	90.0%	256	112	43.8%
8. 農業土木	25	10	40.0%	27	13	48.1%	83	44	53.0%	17	4	23.5%	28	16	57.1%	43	24	55.8%	32	14	43.8%	12	8	66.7%	17	8	47.1%	284	141	49.6%
9. 森林土木	14	7	50.0%	7	5	71.4%	24	7	29.2%	0	0	0.0%	5	4	80.0%	19	9	47.4%	6	4	66.7%	12	2	16.7%	0	0	0.0%	87	38	43.7%
10. 造 園	20	11	55.0%	7	1	14.3%	5	4	80.0%	3	1	33.3%	5	3	60.0%	6	1	16.7%	4	1	25.0%	2	2	100.0%	1	0	0.0%	53	24	45.3%
11. 都市計画及び地方計画	76	30	39.5%	39	12	30.8%	27	12	44.4%	15	2	13.3%	10	7	70.0%	30	18	60.0%	29	17	58.6%	10	5	50.0%	8	8	100.0%	244	111	45.5%
12. 地 質	28	12	42.9%	17	5	29.4%	26	9	34.6%	2	2	100.0%	11	6	54.5%	8	2	25.0%	12	5	41.7%	13	4	30.8%	13	4	30.8%	130	49	37.7%
13. 土質及び基礎	67	16	23.9%	75	41	54.7%	103	35	34.0%	25	4	16.0%	15	4	26.7%	28	11	39.3%	52	15	28.8%	36	8	22.2%	33	12	36.4%	434	146	33.6%
14. 鋼構造及びコンクリート	208	99	47.6%	123	40	32.5%	173	63	36.4%	12	5	41.7%	58	24	41.4%	119	45	37.8%	97	36	37.1%	67	37	55.2%	74	35	47.3%	931	384	41.2%
15. トンネル	25	16	64.0%	14	11	78.6%	36	23	63.9%	0	0	0.0%	8	2	25.0%	11	7	63.6%	6	4	66.7%	15	10	66.7%	8	1	12.5%	123	74	60.2%
16. 施工計画、施工設備及び積算	83	31	37.3%	46	15	32.6%	29	11	37.9%	14	1	7.1%	9	1	11.1%	18	1	5.6%	29	11	37.9%	20	11	55.0%	14	8	57.1%	262	90	34.4%
17. 建設環境	49	23	46.9%	34	18	52.9%	28	13	46.4%	6	1	16.7%	18	6	33.3%	18	8	44.4%	11	6	54.5%	11	6	54.5%	7	1	14.3%	182	82	45.1%
18. 機 械	10	5	50.0%	3	2	66.7%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	14	7	50.0%
19. 水産土木	12	7	58.3%	2	2	100.0%	7	3	42.9%	3	0	0.0%	6	3	50.0%	2	1	50.0%	6	4	66.7%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	39	20	51.3%
20. 電気・電子	45	11	24.4%	25	10	40.0%	12	6	50.0%	5	1	20.0%	8	1	12.5%	10	3	30.0%	4	2	50.0%	12	5	41.7%	3	2	66.7%	124	41	33.1%
21. 廃棄物	3	1	33.3%	5	3	60.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	4	2	50.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	14	6	42.9%
22. 建設情報	29	9	31.0%	8	3	37.5%	7	0	0.0%	1	0	0.0%	2	1	50.0%	10	8	80.0%	5	0	0.0%	4	2	50.0%	1	0	0.0%	67	23	34.3%
合 計	1,280	547	42.7%	856	360	42.1%	1,108	465	42.0%	197	53	26.9%	330	140	42.4%	634	284	44.8%	528	218	41.3%	368	168	45.7%	358	136	38.0%	5,659	2,371	41.9%

令和元年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャ（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっている。

令和元年度の登録更新講習会は、平成14・18・22・26年度の「RCCM資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）では、令和元年9月27日午前・午後に分かれて実施され、343名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

午前の部

- 挨拶・講話 (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 菅原稔郎
- 技術課題と最近の動向 神戸大学大学院 教授 竹林幹雄
- 建設コンサルタントの現状と課題 京都大学 経営管理大学院 名誉教授/特任教授 小林潔司
- 登録更新ガイド・修了証書交付

午後の部

- 挨拶・講話 (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 菅原稔郎
- 技術課題と最近の動向 神戸大学大学院 教授 竹林幹雄
- 建設コンサルタントの現状と課題 京都大学 経営管理大学院 名誉教授/特任教授 小林潔司
- 登録更新ガイド・修了証書交付

令和元年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会 場 名		申込者数	受講者数	受 講 率	実施月日
札 幌		午前 157	157	100.0%	10月 3日
		午後 188	188	100.0%	
仙 台		午前 172	172	100.0%	9月27日
		午後 171	171	100.0%	
東京	第一	午前 234	233	99.6%	10月 1日
		午後 244	244	100.0%	
	第二	午前 260	260	100.0%	12月 3日
		午後 233	230	98.7%	
新 潟		午後 123	123	100.0%	10月11日
名 古 屋		午前 170	170	100.0%	10月 8日
		午後 188	187	99.5%	
大阪	第一	午前 214	212	99.1%	10月24日
		午後 222	222	100.0%	
	第二	午前 112	112	100.0%	11月26日
			午後 232	231	99.6%
高 松		午前 105	105	100.0%	10月17日
		午後 102	102	100.0%	
福岡	第一	午前 213	213	100.0%	9月24日
		午後 212	212	100.0%	
	第二	午後 151	150	99.3%	12月11日
			午後 86	84	97.7%
合 計		3,789	3,778	99.7%	

「対外活動委員会」の紹介

対外活動委員長

大日本コンサルタント株式会社 向 田 昇

1. 委員会の役割

対外活動委員会は、支部の対外活動の一環として、建設コンサルタントが抱える諸課題について、発注機関である東北地方整備局及び東北各県・仙台市と意見交換会を実施しています。

2. 委員会のメンバー

対外活動委員会は現在16名のメンバーで構成されており、それぞれが担当の発注機関を受け持ちながら、意見交換会の実施に向けて活動しています。

対外活動委員会のメンバー（令和元年度）

氏名	役職	会社名
向田 昇	委員長	大日本コンサルタント(株)
石塚 三雄	副委員長	東邦技術(株)
熊坂 徹也	副委員長	(株)オリエンタルコンサルタンツ
黒澤 孝	委員	(株)東コンサルタント
川村 和典	委員	いであ(株)
鷗沼 順之	委員	(株)ウスマ地域総研
四戸 恒一	委員	応用地質(株)
佐藤 雅樹	委員	(株)オリエンタルコンサルタンツ
藤田 博康	委員	(株)建設技術研究所
柴野 将広	委員	国際航業(株)
牛久保 智哉	委員	新和設計(株)
酒井 謙一	委員	セントラルコンサルタント(株)
黒丸 覚	委員	大日本コンサルタント(株)
樋口 重明	委員	パシフィックコンサルタンツ(株)
佐藤 喜一郎	委員	(株)復建技術コンサルタント
遠藤 徹也	委員	大日本コンサルタント(株)



▲対外活動委員会のメンバー

3. 令和元年度の意見交換会

2019年6月の品確法の改正により調査・設計などの業務が同法の対象として明確に位置付けられた中、令和元年度は2019年4月の改正労働基準法の施行を踏まえた働き方改革への受発注者協働の取り組みを中心に「担い手確保・育成のための環境整備」「技術力による選定」「品質の確保・向上」の3つを議論の柱としました。

このうち「担い手確保・育成のための環境整備」の議論に向けて、東北地方整備局とともに受発注者合同のウィークリースタンスアンケートを実施しました。東北地方整備局では2018年4月から特記仕様書に「ウィークリースタンス等の推進」を明記し、それから1年経過した段階での調査でしたが、受発注者ともにウィークリースタンスの浸透によって、超過勤務の縮減や業務を効率的に進める意識が向上したとの声が寄せられました。一方、受発注者間で認識の差がみられたのは、作業内容に見合った作業時間の確保で、受注者の方が発注者よりも十分に時間が確保されていないとの認識を持つ割合が多いとの結果が出ました。

その他のテーマとして、昨年の台風19号に代表されるような災害対応業務を実施するため、既往業務の効果的な業務一時中止命令と工期延期の実施や年度繰越の柔軟な運用、安定的な事業量の確保と技術者単価の継続的な引き上げ、実態に即した歩掛・積算体系への改善及び整備など、個々に議論を積み重ねました。

4. 今後に向けて

建設コンサルタントが魅力的な業界であり続けるためには、パートナーである発注機関とともに課題解決に取り組んでいくことが重要です。当委員会の活動がその一翼を担えるよう、今後も努力する所存です。

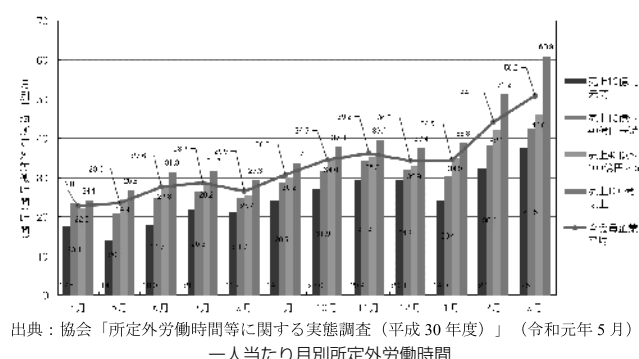
建設コンサルタントにおける働き方改革の現在地

建設コンサルタンツ協会東北支部
広報委員会

2019年4月から「働き方改革関連法」が施行され、その一つである改正労働基準法は、特例でも残業時間の上限規制が設けられました。「サービス業」である建設コンサルタントは、猶予無く同法の適用を受けることとなり、協会では発注者と協働して就業環境改善への取り組みを進めているところです。

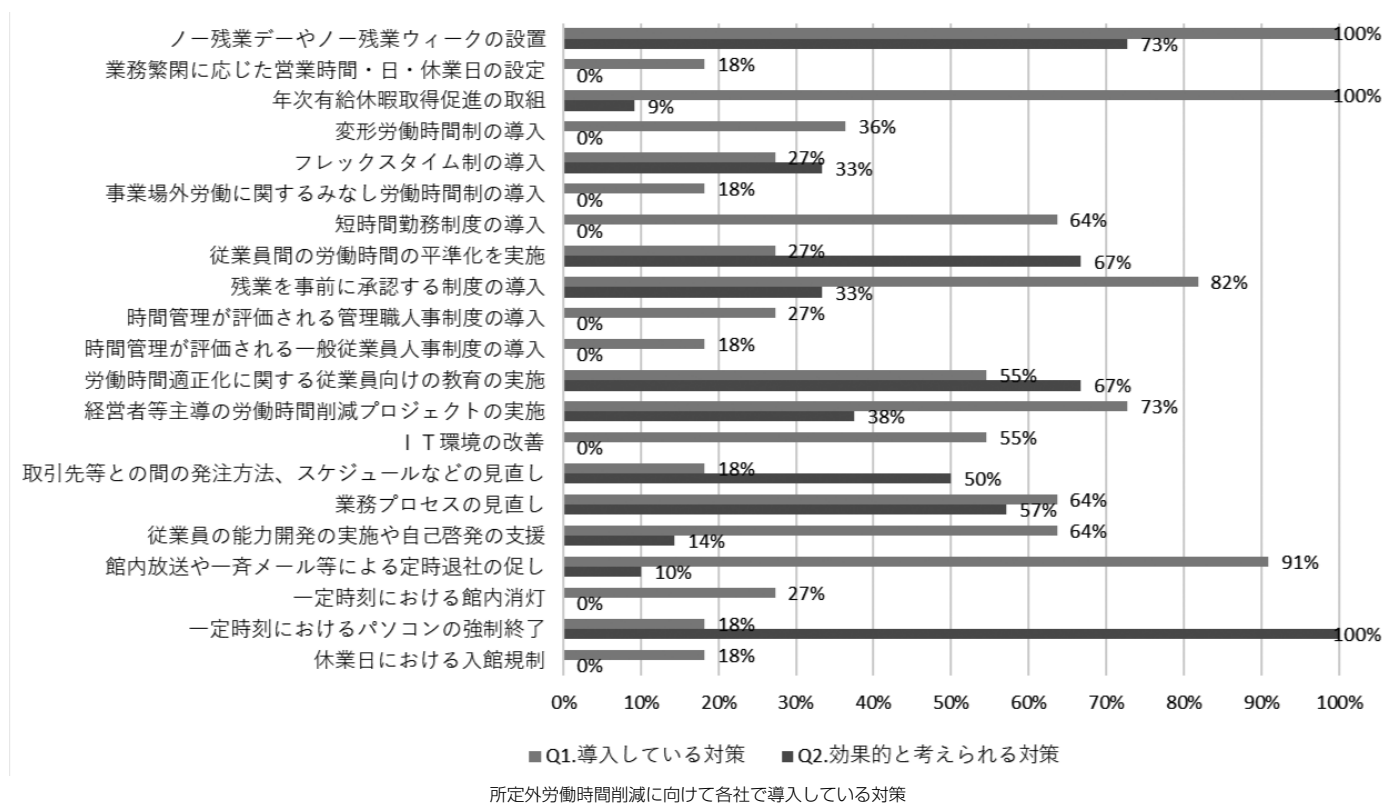
就労時間に関する実態と課題

協会本部が実施した「所定外労働時間等に関する実態調査（平成30年度）」によると、年度末に向けて所定時間外労働時間が多くなっています。



まとめ

就業環境の改善は社内的な動きだけでなく、ウィークリースタンスなど受発注者協働の取り組みも始まっており、年々進展している状態です。そうした外部環境の変化とともに各社の企業風土に合わせ、今後特徴的な対策を導入していく必要があると考えられます。



労働局によるベストプラクティス企業訪問

宮城労働局は過重労働解消キャンペーン活動の一環で、働き方改革に積極的に取り組んでいるベストプラクティス企業として、2019年12月に株式会社復建技術コンサルタントを訪問しました。

同社では、「健康で意欲的に働くことができるために、ワークライフバランスの定着を目的とした活動（ワークライフバランス推進活動）を継続的に行っている。」「残業の申請がない場合、終業時刻の30分後には強制的にパソコンをシャットダウンさせ、早期帰宅を促している。」「ゴールデンウィークや盆、年末年始、所定休日と祝日の間に労働日がある月等を有給休暇取得強化月間として、有給休暇の取得促進を奨励している。」といった取り組みを実施しているほか、部署ごとに見える化した業務の進め方や効率化などの取り組み内容の共有、毎週水曜日のノー残業デーの実施、

勤務システムの申請とパソコンログなどとの労働時間の乖離調査などを行い、労働時間適正化に注力しています。

企業訪問では宮城労働局の依田局長と菅原社長が、就労環境の改善の重要性について意見交換しました。



令和元年度 JCCA講演会報告

広報委員会

(株) 双葉建設コンサルタント 代表取締役 海 藤 剛

令和に入り初めての講演会は、「来て！観て！感じて！夢見て東北」～Many thanks for your support～をテーマとして、去る令和元年11月19日（火）にホテル法華クラブ仙台にて開催されました。本年は10月の台風災害により、講演会自体の開催も危ぶまれましたが、会員の熱意や、なによりも講師の方々のご協力を得て開催できました。



菅原支部長の挨拶

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部の菅原稔郎支部長より、主催者代表として講演会のご挨拶を申し上げました。次に、来賓挨拶として国土交通省東北地方整備局企画部長の西尾崇様よりご挨拶を頂戴いたしました。



西尾企画部長の挨拶

講演会は、始めに「光り輝く三陸を目指して～台風被害を乗り越えて～」と題しまして、三陸鉄道株式会

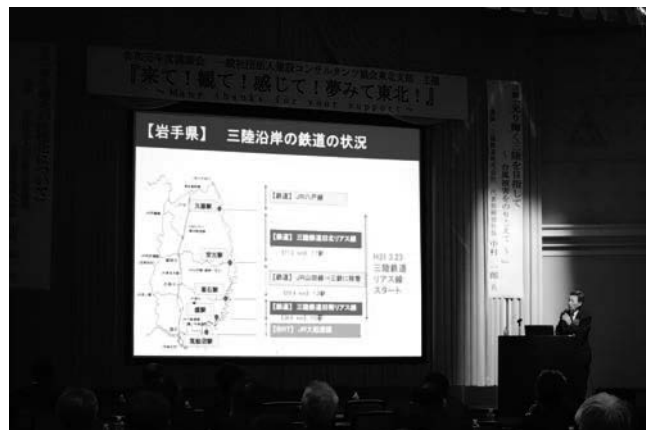
社代表取締役社長の中村一郎様よりご講演を頂きました。

三陸鉄道は東日本大震災で被災したことは有名ですが、その後、2019年台風19号においても被害を受け、被災箇所は77箇所にも及び、再び不通になったことなどが数々の写真とともに報告されました。



中村一郎社長

中村社長は、岩手県庁出身であり、その県庁時代の地域振興のノウハウを活かした経営をなされている方で、その手腕についてたくさんのお話をいただきました。特に、企画列車などの企画は、社員から発案があったものとはにかく実施してみるとのことで、様々な企画列車を運行してきました。



中村社長 講演の様子

ワイン列車、ビール列車、地酒列車、ジャズ列車、あまちゃん列車、囲碁列車、震災学習列車など数々のイベントを実施し、ついには人気グループのAKB48が三鉄応援大使になり、企画列車等への協力をするまでに至っているということでした。

2020年3月20日に全線運行再開に向け、鋭意努力しているとのことでありましたが、

- ① 観光資源としての魅力度アップ
- ② 学び場としての活用
- ③ 健康づくりに活用

これらを通じて「まちの黒字化」（地域の振興）に結びつけるといった並々ならない努力に対して感銘を受けた講演でした。

引き続きまして、「東北観光の活性化について」と題しまして、一般社団法人東北観光推進機構専務理事推進本部長の紺野純一様よりご講演を頂きました。



紺野純一専務理事

紺野様は、国鉄入社後、仙台駅長やホテルメトロポリタン仙台総支配人を経て、東北観光推進機構専務理事に就任された方で、いわゆる世界の中で東北の観光を身をもって感じておられる方ですので、非常に楽しみにしておりましたが、数々のグラフやデータをもとに非常に分かりやすい説明をしていただきました。特に東北地方の観光の現状を各県ごとのデータを提示され、インバウンドの現状と課題をお示しいただきました。



紺野専務理事 講演の様子

インバウンドの需要は年々急拡大を遂げていますが、そのニーズは「体験」への関心が高まっていることや東北地域が一体となり「オール東北」での観光推進がこれからも重要となることなどをご説明いただきました。



聴衆の様子

今回も、「震災を経た東北のこれから」を考える時宜を得た有用な情報が提供出来たのではと考えております。今後もこのような講演会を開催してまいりますので、会員皆様の多数の参加をお願い申し上げます。

建コン交流会を開催

総務部会委員

セントラルコンサルタント株式会社
株式会社ダイヤコンサルタント石 井 賢 司
坂 下 尚 樹

令和元年9月28日に交流会を行いました。

今回は、ニッカウキスキー宮城峡蒸溜所工場見学、秋保森林スポーツ公園でバーベキューというコースでした。秋晴れの勾当台公園市民広場に集まった参加者は49名、若手の方、女性の方も多く、お子さんを連れた方もいて、バスは和やかなムードで出発しました。

始めに訪れたのはニッカウキスキー宮城峡蒸溜所です。朝の連続テレビ小説で「マッサン」が放映されたのは5年前の2014年。モデルとなった竹鶴正孝が新川の清流でブラックニッカを割って飲み、その場で蒸溜所建設を決めたと言われる、北海道余市に次ぐニッカウキスキー第二の蒸溜所です。

土地の起伏を活かし、樹木の伐採を最小限にとどめた設計、鎌倉山をバックにレンガ造りの建造物をゲストに見せる配置、電線の地中化、竣工が昭和44年と高度成長期に建設されたにも関わらず竹鶴正孝が合理性よりも自然や景観を優先した強いこだわりが随所に見られます。近年のハイボールブームによる原酒不足問題を解消するため、工場施設の増設を予定しているそうですが、その際も竹鶴正孝の精神を引き継いでいくと説明がありました。

蒸溜棟、貯蔵庫で香りに圧倒されつつ知識を深めた一行は、ゲストホールへ移動し、楽しみにしていた試飲です。家族旅行であればハンドルキーパーで寂しい思いをしますが、バス移動のため気にするこ



となく楽しみました。(アルコールが飲めない方はソフトドリンクもあります。) 試飲は3種類のお酒が楽しめますが、せっかくの機会なので有料でおかわりし、ウイスキー談義に花を咲かせている方も多かったようです。

続いて秋保森林スポーツ公園へ移動しバーベキューをしました。到着すると、工場見学で一杯ひっかけてきたとは思えないほど手際よく準備が進み、あっという間に食事が始まりました。今回は天気もよく、青空の下で楽しくおいしい交流の場となりました。

総務部会では毎年交流会を企画し、開催しています。近年は、キリンビール工場、芋煮会、そば打ち、ワイナリー見学などを行ってきました。

少し遠出をして協会員の交流を深める機会として活用いただくとともに、交流会候補地のご紹介や、ご意見などいただけると幸いです。



令和元年度 東北支部会員 受賞者一覧（3部門）

令和元年度 i-Construction 大賞受賞者一覧

○工事・業務部門

No.	表彰の種類	業 者 名	業 務 名
1	優秀賞	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	名塩道路城山トンネル他詳細修正設計業務

○i-Construction推進コンソーシアム会員の取組部門

No.	表彰の種類	業 者 名	業 務 名
1	国土交通大臣賞	株式会社 昭和土木設計	地場のコンサルからの全体最適化を目指した取り組み
2	優秀賞	株式会社 復建技術コンサルタント	中小河川維持管理用ソフトウェア「e-River」の開発

みちのく i-Construction 奨励賞受賞者一覧

○東北地方整備局部門

No.	業 者 名	業 務 名
1	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	泉田大橋詳細設計業務
2	東京コンサルタンツ 株式会社	平成30年度 最上川上流樽川排水樋門詳細設計業務
3	中央復建コンサルタンツ 株式会社	平成30年度 掛田橋における建設プロセス改善検討業務

○地方公共団体部門

No.	業 者 名	業 務 名
1	株式会社 寒河江測量設計事務所	一般国道458号 UAV写真測量業務委託

令和元年台風19号災害 感謝状受賞一覧

No.	事務所名	業 者 名
1	整備局河川部 仙台河川国道 磐城国道	応用地質株式会社
2	三陸国道 南三陸国道	株式会社菊池技研コンサルタント
3	三陸国道 仙台河川国道 磐城国道	株式会社復建技術コンサルタント
4	三陸国道 仙台河川国道	大日本コンサルタント株式会社
5	三陸国道	株式会社近代設計
6	三陸国道	三陸沿岸道路事業監理業務みちのく・復建・三協・戸田設計共同体
7	三陸国道	三陸沿岸道路事業監理業務東北地域づくり・エイト日技・鉄建設設計共同体
8	三陸国道	三陸沿岸道路事業監理業務（普代久慈工区） 清水・オリエンタルコンサルタンツ・URリンケージ・五洋・飛鳥設計共同体
9	三陸国道	三陸沿岸道路事業監理業務（洋野工区）工営・関東・大成・福山設計共同体
10	三陸国道	三陸沿岸道路事業監理業務（田野畑普代工区）片平新日本技研・拓進工営・日本国土開発設計共同体
11	三陸国道	サンコーコンサルタント株式会社
12	三陸国道	侍浜階上地区工事監督支援業務みちのく・東建工営設計共同体
13	仙台河川国道 北上川下流河川	一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部
14	仙台河川国道 福島河川国道	パシフィックコンサルタンツ株式会社
15	仙台河川国道	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
16	仙台河川国道	中央コンサルタンツ株式会社
17	仙台河川国道	株式会社サトー技建
18	仙台河川国道	株式会社三協技術
19	仙台河川国道	中央開発株式会社

No.	事務所名	業 者 名
20	仙 台 河 川 国 道 磐 城 国 道	中央復建コンサルタンツ株式会社
21	仙 台 河 川 国 道 福 島 河 川 国 道 郡 山 国 道	日本工営株式会社
22	仙 台 河 川 国 道 北上川下流河川 秋 田 河 川 国 道 福 島 河 川 国 道	株式会社建設技術研究所
23	仙 台 河 川 国 道	アジア航測株式会社
24	仙 台 河 川 国 道	名取川・広瀬川流量観測等調査業務三協技術・建設環境研究所設計共同体
25	仙 台 河 川 国 道	川崎地質株式会社
26	仙 台 河 川 国 道	株式会社ドーコン
27	仙 台 河 川 国 道	株式会社福山コンサルタント
28	仙 台 河 川 国 道	株式会社片平新日本技研
29	仙 台 河 川 国 道	阿武隈川流量観測等調査業務三協技術・仙東技術設計共同体
30	仙 台 河 川 国 道	阿武隈川下流・名取川河川管理施設監理検討業務建設環境研究所・東北地域づくり設計共同体
31	北上川下流河川	株式会社田村測量設計事務所
32	北上川下流河川	株式会社双葉建設コンサルタント
33	北上川下流河川 山 形 河 川 国 道	株式会社寒河江測量設計事務所
34	北上川下流河川 磐 城 国 道	株式会社パスコ
35	北上川下流河川	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
36	北上川下流河川 福 島 河 川 国 道	いであ株式会社
37	北上川下流河川	北上川下流管内河口部堤防復旧施工監理設計業務パシフィックコンサルタンツ・エフワーク設計共同体
38	北上川下流河川	鳴瀬川水系水文調査三協技術・エイト日本技術開発設計共同体
39	北上川下流河川	株式会社東建工営
40	北上川下流河川	セントラルコンサルタント株式会社
41	北上川下流河川 秋 田 河 川 国 道 福 島 河 川 国 道	三井共同建設コンサルタント株式会社
42	北上川下流河川 福 島 河 川 国 道	八千代エンジニアリング株式会社
43	秋 田 河 川 国 道	東邦技術株式会社
44	秋 田 河 川 国 道 福 島 河 川 国 道	株式会社東京建設コンサルタント
45	秋 田 河 川 国 道	株式会社ウスマ地域総研
46	山 形 河 川 国 道	新和設計株式会社
47	山 形 河 川 国 道	株式会社三和技術コンサルタント
48	福 島 河 川 国 道	株式会社建設環境研究所
49	福 島 河 川 国 道 郡 山 国 道	国際航業株式会社
50	福 島 河 川 国 道	株式会社郡山測量設計社
51	福 島 河 川 国 道 郡 山 国 道 三 春 ダ ム	陸奥テックコンサルタント株式会社
52	福 島 河 川 国 道	株式会社東コンサルタント
53	福 島 河 川 国 道	株式会社ダイヤコンサルタント
54	郡 山 国 道 磐 城 国 道	日栄地質測量設計株式会社
55	郡 山 国 道	株式会社長大
56	郡 山 国 道	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
57	郡 山 国 道	株式会社東日本建設コンサルタント

[支部だより]

10月7日(月)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／J C C A TOHOKU の校正

10月8日(火)

秋田県との意見交換会

場 所／アキタパークホテル

秋田県 佐藤建設産業振興統括監 他 8名

協 会 菅原支部長 他 21名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) そ の 他

10月10日(木)

土研新技術ショーケース2019in仙台

場 所／フォレスト仙台

主 催 国立研究開発法人土木研究所

共 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部
参加者 180名

10月11日(金)

経営分析説明会

場 所／パレス宮城野

主 催 本部 総務部会財務専門委員会

受講者45名

10月11日(金)

若手の会

10月15日(火)

品質セミナー「エラー防止」

場 所／ホテル法華クラブ仙台

主 催 本 部 受講者134名

10月17日(木)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 新井田 県土整備部長他 11名

協 会 菅原支部長他 17名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) そ の 他

10月18日(金)

技術部会

場 所／支部会議室

議 題／台風19号災害打ち合わせ

10月24日(木)

山形県との意見交換会

場 所／山形県自治会館

山形県 角湯 県土整備部長他 10名

協 会 菅原支部長他 21名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) 自由討議

10月24日(木)

情報セキュリティ講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 本部 情報委員会・情報セキュリティ専門委員会
東北支部 情報部会 受講者32名

10月24日(木)

技術部会

場 所／支部会議室

議 題／台風19号災害打ち合わせ

11月1日(金)

RCCM試験監督員説明会

場 所／(株)復建技術C 会議室

11月5日(火)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 情報部会活動報告及び来年度事業計画について
(2) GIS講習会及びみちのく GIDAS のアンケートについて
(3) そ の 他

11月7日(木)

ふくしま市町村支援機構「道路・橋梁の補修について」
へ講師派遣

講 師／石井 一人(パシフィックC(株))

11月10日(日)

令和元年度RCCM資格試験

場 所／東北工業大学

10:00~16:45

主 催 (社)建設コンサルタンツ協会
(受験者数 仙台会場 528名)

11月12日(火)

宮城県との意見交換会(3団体合同)

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社)宮城県測量設計業協会

(一社)全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

場 所/パレス宮城野

宮城県 金子 土木部技監兼次長他 9名

協 会 菅原支部長他 3団体 41名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力重視による選定と入札制度に関する要望と提案
- (3) 品質の確保・向上
- (4) 各協会からの要望と提案

11月13日(水)

ICTセミナー

場 所/パレス宮城野

主 催 本部 情報部会・ICT委員会・ICT普及専門委員会
東北支部 情報部会 受講者52名

11月19日(火)

令和元年度講演会「来て!観て!感じて!夢見て東北」

場 所/ホテル法華クラブ仙台

講 演/「光輝く三陸を目指して

-台風災害をのりこえて-

三陸鉄道株式会社 代表取締役社長

中村 一郎 氏

「東北観光の活性化について」

一般社団法人 東北観光推進機構

専務理事推進本部長 紺野 純一 氏

主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部
広報委員会後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、
日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、
日刊建設通信新聞社、建設新聞社協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、
公益社団法人日本技術士会東北支部他
参加者 138名

11月19日(火)

広報委員会

場 所/ホテル法華クラブ仙台

議 題/(1) 講演会について最終打ち合わせ
(2) J C C A TOHOKU について
(3) そ の 他

11月21日(木)~12月4日(水)

技術士模擬面接

主 催 技術部会

11月28日(木)

仙台市との意見交換会

場 所/仙台市役所 会議室

仙台市 小野 都市整備局長 他6名

協 会 菅原 支部長 他21名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力重視による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) そ の 他

12月5日(木)

技術部会(環境専門委員会)

場 所/支部会議室

12月12日(木)

第3回総務部会

場 所/支部会議室

議 題/(1) 今年度の活動確認と次年度行事(予算含)
の確認
(2) JCCATOHOKU 記事掲載について
(3) そ の 他

12月17日(火)

東北地方整備局との意見交換会

場 所/パレス宮城野

整備局 西尾 企画部長 他8名

協 会 菅原 支部長 他18名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定について
- (3) 品質の確保・向上
- (4) そ の 他

12月18日(水)

ふくしま市町村支援機構「福島県土木部専門研修

【監督業務(設計)】へ講師派遣

講 師/橋本 智雄(中央開発㈱)

12月19日(木)

情報部会

場 所/支部会議室

議 題/(1) 各WGの活動報告について
(2) GIS講習会及びみちのく GIDAS のアン
ケートについて
(3) そ の 他

支部だより

1月22日(水)

第5回役員会

場 所／パレス宮城野

議 題／(1) 令和2年度事業計画及び予算(案)について
(2) 各部会・委員会からの連絡事項
(3) そ の 他

1月22日(水)

講演会「最近の建設コンサルタントを巡る状況等について」

場 所／パレス宮城野

講 師 本部 酒井 副会長 参加者110名

1月22日(水)

支部新年会

場 所／パレス宮城野

主 催 総務部会 出席者120名

1月28日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 令和元年度意見交換会総括
(2) そ の 他

1月31日(金)

技術部会(部会長以上)

場 所／支部会議室

2月3日(月)～4(火)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」
へ講師派遣

講 師／向江 正夫(株東京建設C)
石井 一人(パシフィックC株)

2月4日(火)

技術部会(環境専門委員会)

場 所／支部会議室

2月10日(月)

令和元年度河川・環境委員会合同セミナー

場 所／TKP ガーデンシティ仙台東口

主 催 技術部会(河川・環境専門委員会) 受講者74名

2月12日(水)

第6回役員会

場 所／事務局会議室

議 題／(1) 元年度「意見交換会」総括及び2年度本部「要望と提案」について
(2) 令和2年度技術部会「事業計画」の修正
他

2月14日(金)

第18回 高校生「橋梁模型」作品発表会

場 所／せんだいメディアテーク

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会
(当支部他5団体共催)

2月14日(金)

河川技術関係業務に係る説明会

場 所／東北地方整備局 12階 大会議室

主 催 技術部会(河川専門委員会) 受講者92名

2月18日(火)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 各WGの活動報告について
(2) GIS講習会のアンケートについて
(3) そ の 他

2月20日(木)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告
(2) 令和元年度意見交換会総括他

講演1「東北復興働き方・人づくり改革プロジェクト」
東北地方整備局 企画部 技術調整管理官
一戸 欣也 氏

講演2 令和元年度国土交通省「i-Construction」
大臣表彰受賞者発表会

①国土交通大臣賞 (株)昭和土木設計
ICT推進室 藤原 聖子 氏
②優秀賞 (株)復建技術コンサルタント
技術センター課長 市川 健 氏
技術センター長 檜 晋 氏

2月26日(水)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) J C C A TOHOKU の編集について
(2) そ の 他

2月27日(木)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／日本工営仙台支店 会議室

本 部 高野会長 他 11名

支 部 菅原支部長 他 19名

議 題／1. 令和2年度「要望と提案」概要の説明について
2. 令和2年度「白書」の主要改訂点について
3. 支部からの提案
4. そ の 他

3月26日（木）

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) J C C A TOHOKU の編集について

[会員の動向]

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

令和元年10月1日 (株)長大 仙台支社
支社長 長南 憲一

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員 4月1日現在 103社

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株) アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エー・ス	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-2235
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-292-6012
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)コウキコンサルタント	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サトー技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
J R東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株) 創 研 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 綜 合 技 術 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創 和 技 術 (株)	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
玉 野 綜 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)	仙 台 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 田 村 測 量 設 計 事 務 所	本 社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第 一 復 建 (株)	仙 台 事 務 所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダ イ エ ツ	本 社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大 日 コ ン サ ル タ ン ト (株)	仙 台 事 務 所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大 日 本 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 支 社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株) ダ イ ヤ コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大 和 工 営 (株)	本 社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地 圏 綜 合 コ ン サ ル タ ン ト	仙 台 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中 央 開 発 (株)	東 北 支 店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中 央 技 術 コ ン サ ル タ ン ツ	東 北 支 店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中 央 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	仙 台 支 店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中 央 復 建 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	東 北 支 社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中 電 技 術 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 営 業 所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15	022-397-8173
(株) 長 大	仙 台 支 社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千 代 田 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) 東 京 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東 京 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	東 北 支 店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東 建 工 営	本 社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) ト ー ニ チ コ ン サ ル タ ン ト	東 北 事 務 所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ド ー コ ン	東 北 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東 邦 技 術 (株)	本 社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東 北 開 発 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東 北 構 造 社	本 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 土 木 技 研	本 社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日 栄 地 質 測 量 設 計 (株)	本 社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日 水 コ ン	東 北 支 所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
(株) 日 本 イ ン シ ー ク	東 北 支 店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
日 本 工 営 (株)	仙 台 支 店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株) 日 本 構 造 橋 梁 研 究 所	東 北 支 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-713-6657
(株) 日 本 港 湾 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日 本 振 興 (株)	東 北 支 店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株) ニ ュ ー ジ ェ ッ ク	東 北 支 店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パ ス コ	東 北 事 業 部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東 日 本 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福 田 水 文 セ ン タ ー	東 北 営 業 所	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18	022-224-1417
(株) 福 山 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富 士 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	仙 台 支 店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふ た ば	本 社	〒963-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央592	0240-22-0261
(株) 双 葉 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株) 復 建 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ	東 北 支 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株) 復 建 技 術 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復 建 調 査 設 計 (株)	東 北 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三 井 共 同 建 設 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 支 社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸 奥 テ ッ ク コ ン サ ル タ ン ト (株)	本 社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八 千 代 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ (株)	北 日 本 支 店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 横 浜 コ ン サ ル テ ィ ン グ セ ン タ ー	仙 台 支 店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-262-1493

編集後記

本誌「JCCA TOHOKU」は今回で記念すべき60回目の発行となりました。昭和60年「東北だより」として発行を開始してから延べ35年となります。長期にわたってご協力いただいた東北支部会員の皆様、本誌発行にご尽力いただいた歴代編集部の方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

今後も、東北支部活動、会員の方々の近況、タイムリーな話題などを盛り込んだ、魅力ある広報誌となるよう編集部一同努力してまいりますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

60号記念号に際し、支部長、前支部長・前副支部長より就任当時の思い出や今後の建設コンサルタンツ協会のあり方等についてお言葉を頂きました。また特集では「激甚化する自然災害」をテーマとして、「令和元年台風19号における災害対応」と題し池澤様より、「防災意識社会の転換に向けて」と題し東北地方整備局の西尾企画部長、松本建設専門官よりご寄稿頂きました。お忙しいところ誠にありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

今年度は年号が令和に変わった最初の年度です。ラグビーワールドカップの日本代表が、「ONE TEAM」のスローガンを掲げベスト8まで勝ち上がった大躍進には、多くの人が勇気と感動をもらったことと思います。その一方で、堤防決壊、大規模内水、土砂災害等東北地方に未曾有の被害をもたらした台風19号災害、未だ衰えることのない世界的大流行の新型コロナウイルスの発生など暗いニュースも多くありました。

今年は大イベントの東京オリンピックが開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、概ね一年後に延期されることが決まりました。世界中一つとなっても早く新型コロナウイルスを終息させ、明るい一年になることを祈ります。

最後になりますが、本誌にご執筆頂きました皆様にお礼を申し上げるとともに、今後とも本誌発行にご協力いただきますようお願い申し上げます。

(令和2年3月 横川勝美 記)

JCCA TOHOKU Vol.60

発行	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820					
編集	広報委員長	木村誠		副委員長	佐藤敏倫	
	副委員長	菊池透広		広報委員	大場秀行	
	広報委員	大友正樹		〃	遠藤徹也	
	〃	遠藤敦		〃	佐藤雅樹	
	〃	海藤剛		〃	高橋伸彰	
	〃	真田広之		〃	樋口章大	
	〃	武田浩幸		〃	横川勝美	
表紙写真	(株)復建技術コンサルタント 荒木孝廣					
事務局	新野俊晴・小川みゆき					
印刷	ハリウ コミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011					



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。